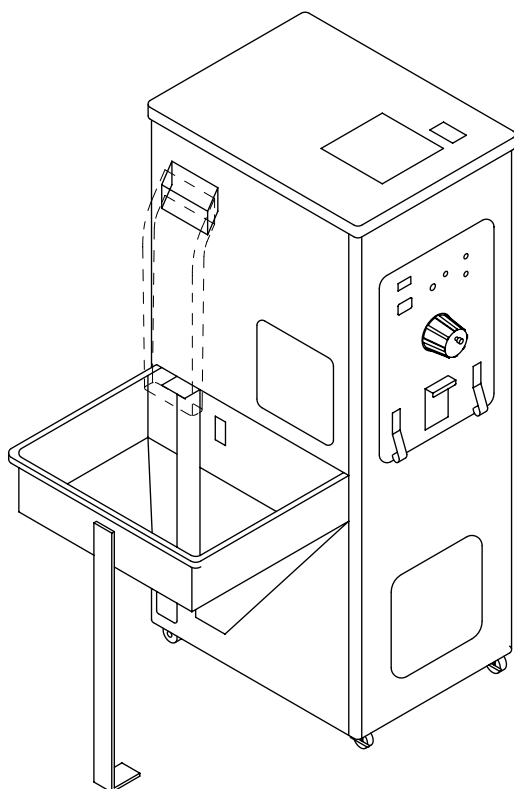


一回搗精米機

マルマスター GX-55EB型

取扱説明書



この度は、一回搗精米機
”マルマスターGX-55EB型”
をお買い上げ頂き
厚くお礼申し上げます。

ご使用のまえには
取扱説明書を熟読され
未長くご愛用下さい。

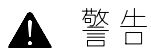
なお、不明瞭な点がございましたら
販売店もしくは当社に
お問い合わせ下さい・

警告

- この取扱説明書を熟読され充分理解された上で、本機の操作及び保守・点検を行って下さい。
- この取扱説明書を本機の操作及び保守・点検を行う場合にいつでも見られるように大切に保管して下さい。

製造元：マルマス機械株式会社

重要なお知らせ



- ◎ この機械の操作及び保守・点検を行うときは、必ずこの取扱説明書に従って下さい。
- ◎ この取扱説明書に従わなかったために、あるいは誤用や無断改造がなされたために、けがを負ったり損害が発生したとしても、当社及びその販売会社は一切その責任を負いません。

1) . 近年、農業機械には、新しい材料や加工方法の採用により、さまざまな危険が数多く発生する傾向にあります。

この機械の取扱上の危険についても、すべての状況を予測することは出来ません。

そのため、この取扱説明書の記載事項や機械に表示してある注意事項は

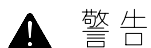
すべての危険を想定しているわけではありません。

従って、機械の操作または日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載及び

機械本体に表示されている事項に限らず、安全対策に関しては十分な配慮が必要です。

2) . この取扱説明書について、質問やより詳しい情報が必要な場合は
当社又は購入店にお問い合わせ下さい。

3) . この取扱説明書において、万一、へ[°]ーシ[°]の<乱丁>や<落丁>などが
あった場合は、お取り替えいたしますので、お手数ですが当社又は購入店まで
ご連絡下さい。



- ◎ この機械の操作及び保守・点検を行うときは、必ずこの取扱説明書の指示・警告に従って下さい。
もし、疑問点または不明な箇所があれば、当社または購入店に
問い合わせるまで、作業を進めないで下さい。

1. 危険防止のために	
1-1: 警告用語の種類と意味	1 頁
1-2: 本機の使用にあたっての諸注意	2, 3 頁
1-3: 警告ラベル・注意ラベルの貼り位置と説明 (1)	4 頁
1-4: 警告ラベル・注意ラベルの貼り位置と説明 (2)	5 頁
1-5: 警告ラベル (本機内部) の貼り位置と説明	6 頁
2. ご使用になるまえに	
2-1: 本機の構成名称	7 頁
2-2: 精米装置の構成	8 頁
2-3: 揚上スクリーン装置の構成	9 頁
2-4: 電氣的仕様の確認	10 頁
2-5: 電気工事に関する注意事項	11 頁
2-6: 本機の設置に関して	12 頁
2-7: サイクロンの取り付け方	13 頁
2-8: 張込ホッパーの取り付け方	14 頁
2-9: 粳・玄米時の切り換え (フロートフィルター装置の取扱い)	15 頁
2-10: 張込ホッパー補助台 (オフション品) の取り付け方	16 頁
2-11: 石抜機セットホッパー (オフション品) の取り付け方	17 頁
2-12: 電源の接続に関して	18 頁
2-13: 回転方向の確認に関して	18 頁
2-14: 配線図	19 頁
2-15: 使用ヘルト明細表	20 頁
3. 運転方法	
3-1: 各操作箇所の説明	21 頁
3-2: 操作部の説明	22 頁
3-3: 戻し万石の説明	23 頁
3-4: 運転方法 (1)	24 頁
3-5: 運転方法 (2)	25 頁
3-6: 玄米排出方法について	26 頁
3-7: 自動停止について	27 頁
3-8: 過負荷異常について	28 頁




4. 各部の調整・点検・掃除	
4-1: 白度の調整	29頁
4-2: 金網の掃除及び交換方法	30頁
4-3: 吸引シュートの掃除方法	31頁
4-4: 吸引ファンの掃除方法	32頁
4-5: サイクロンの掃除方法	33頁
4-6: 精米ロールの掃除方法	34頁
4-7: 主抵抗支杆及び主抵抗板の掃除方法	35頁
4-8: 精米ヘルトの張り方	36頁
4-9: ファンヘルトの張り方	37頁
4-10: 揚上スクリーン装置のヘルトの張り方	38頁
4-11: 揚上スクリーンの交換方法(1)	39頁
4-12: 揚上スクリーンの交換方法(2)	40頁
5. 無洗米造りの精米装置として	
5-1: 無洗米造りの精米装置としてご使用の場合	41頁
6. 不調な時の原因と対策	
6-1: 不調な時の原因と対策一覧(1)	42頁
6-2: 不調な時の原因と対策一覧(2)	43頁

1. 危険防止のために

1-1. 警告用語の種類と意味 *

- ◎ 危険防止のために、本機の危険な箇所には警告ラベルを貼付してあります。
この警告ラベルでは、危険度の高さ（又は事故の大きさ）にしたがって次の3段階に分類しています。

以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従って下さい。

警告用語	意味
 危険	切迫した危険な状態を示し、手順や指示に従わないと死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
 警告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
 注意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと中・軽傷を負う場合、機器・機械が損傷する場合又は原料や製品に不具合が生じる場合に使用されます。



警告： 危険防止のために、危険な箇所には危険・警告・注意の各ラベルが添付してあります。このラベルの注意書きを必ず守って作業を行って下さい。

守らずに作業をしますとケガをする場合があります。

又、各ラベルがはがれたり、読みづらくなった場合は即座に新しいラベルと交換し同位置に貼り付けて下さい。

新しいラベルは当社にて準備しております。（ラベルは有償です。）



注意： 作業を行う前には必ず取扱説明書を熟読され、本機を把握してから取扱説明書に従って作業を行って下さい。
本機の性能を充分発揮出来ず安全上支障をきたすことがあります。



警告： 本機を設置する際は、準備作業を必ず取扱説明書通りに実施し本機の回りには決して過熱性の物・電気的な高容量物・コンプレッサー等のノイズ発生物などの危険な物は置かないようにして下さい。
本機に悪影響を与え安全上支障をきたすことがあります。



警告： 危険防止のために、危険な箇所には危険・警告・注意の各ラベルが添付してあります。このラベルの注意書きを必ず守って作業を行って下さい。
守らずに作業をしますとケガをする場合があります。
又、各ラベルがはがれたり、読みずらくなった場合は即座に新しいラベルと交換し同位置に貼り付けて下さい。
新しいラベルは当社にて準備しております。



警告： 当社に無断で本機を改造したり、取り付けられている物を取り外したり加工をほどこし本機と関係のない物を取り付けたりすることは絶対にしないで下さい。
本機の性能を充分発揮出来ず安全上支障をきたすことがあります。



警告： 本機を使用する場合の電気工事に関しては、電気工事資格者又は電気工事資格店にて本機の取扱説明書内に記載されている基準を十分満たす工事を実施すること。
自分で勝手に工事はなさないで下さい。
本機に悪影響を与え安全上支障をきたすことがあります。
又、既存の動力配線をお使いになる場合は本機の基準に適合している事を確認後本機を使用して下さい。





警告： 使用頻度に合わせて本機の点検・掃除は必ず実施して下さい。
本機の性能を充分発揮出来ず安全上支障をきたすことがあります。
又、点検・掃除を行う場合は必ず電源プラグを抜いて作業して下さい。
電源プラグの抜き差しにおいては必ずプラグ本体を手で持って行って下さい。
ケーブル自身をひっぱらないで下さい。
守らずに作業をしますとケガをする場合があります。





警告： 本機の御使用后、及び保管の際には必ず、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。


注意： 上記以外の注意点及び詳細は各作業内容に合わせて記載してあります。
よく熟読され、必ず厳守して下さい。


 注意： 本機の御使用后、及び保管の際には必ず、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。
感電・漏電・火災の原因となります。


 注意： 水のかかる場所や火気の近くでは使用しないで下さい。
感電・漏電・火災の原因となります。


 注意： 電源プラグを抜く場合は、電源コードを持たずに必ず電源プラグを持って引き抜いて
下さい。
感電や発火する場合があります。


 警告： 改造はしないで下さい。修理技術者以外の人は分解や修理をしないで下さい。
火災・感電・ケガの原因となります。


 警告： 本機を水につけたり、本機に水をかけたりしないで下さい。
ショート・感電の恐れがあります。

 警告： 電源プラグの刃（プラグ先端）及び刃の取り付け面にほこりが付着している場合は、
よく拭き、ほこりを取り除いて下さい。
火災の原因となります。

 警告： 電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるい場合は本機を
使用しないで下さい。
感電・ショート・発火の原因となります。

 警告： 指定の電源以外では使用しないで下さい。
火災・感電の原因となります。

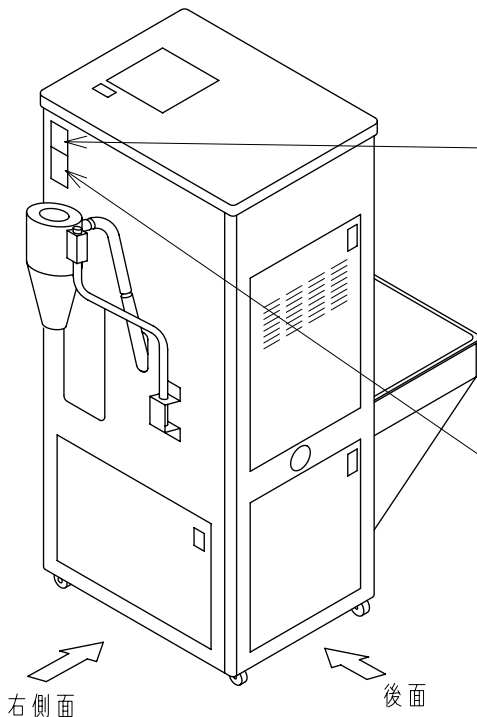
 警告： 電源コードを傷つけないで下さい。
無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたり、高温部に近づけたり、
重たいものを載せたり、挟みこんだり、加工した場合は、電源コードが破損し、
火災・感電の原因となります。

 警告： 電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込んでください。
感電・ショート・発煙・発火の原因となります。

注意： 上記以外の注意点及び詳細は各作業内容に合わせて記載してあります。
よく熟読され、必ず厳守して下さい。



警告： 危険防止のために、危険な箇所には危険・警告・注意の各ラベルが添付してあります。
このラベルの注意書きを必ず守って作業を行って下さい。守らずに作業をしますとケガをする場合があります。
又、各ラベルがはがれたり、読みづらくなった場合は即座に新しいラベルと交換し、同位置に貼り付けて下さい。
新しいラベルは当社にて準備しております。



注意

運転前に、必ず取扱説明書を読んで、操作装置の位置とその機能をよく理解してから運転してください。
チ-4

ラベルの説明

運転前には取扱い説明書を熟読し、本機の性能・機能を充分理解してから運転して下さい。本機の性能を充分発揮出来ず安全上支障をきたすことがあります。

(注文コード 260-433-10)

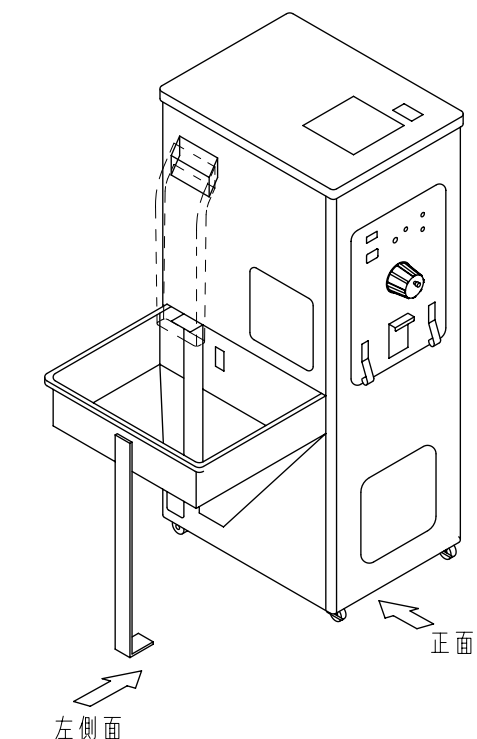
警告

点検、修理及び停電の時は、危険防止の為に必ずスイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いてください。
ケ-12

ラベルの説明

機体内部の点検、修理やベルトの交換その他停電の時等には、危険防止の為に必ずスイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いて下さい。

(注文コード 260-411-11)



警告

運転中は白米出口に手を入れないでくださいケガをします。
ケ-8

ラベルの説明

運転中は絶対に米排出口(米扉)のFF取付板の下方から手を入れないで下さい。指に精米ロールの先端が接触しケガをする場合があります。掃除、点検などを行う際は必ず運転を停止し、電源プラグを抜いて下さい。

(注文コード 260-407-10)

警告

運転中は回転部に手をいれしないでくださいケガをします。
ケ-4

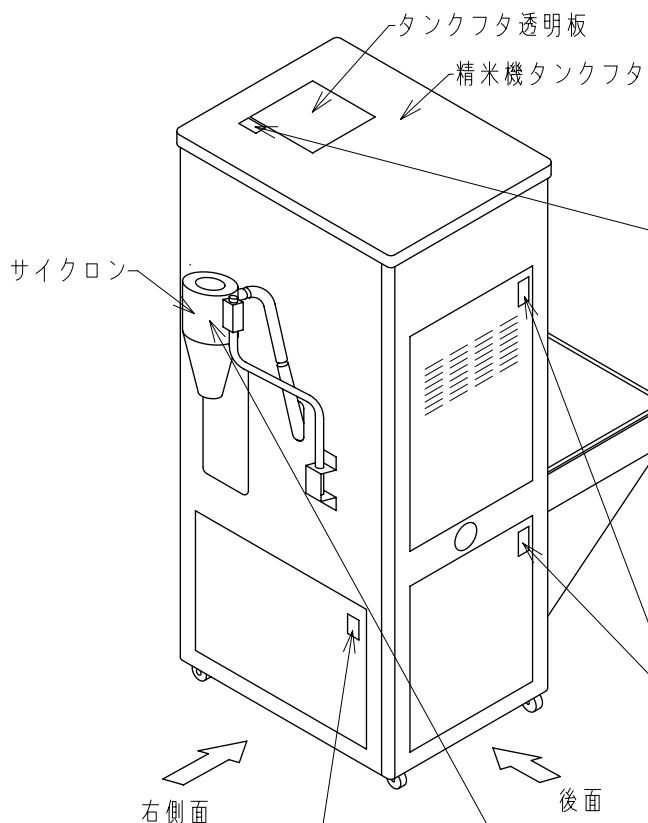
ラベルの説明

張込シャッターを開けると内に揚上スクリーンがあります。運転中にこれらに接触しますと大ケガをしますので、絶対手を入れないで下さい。

(注文コード 260-403-11)



警告： 危険防止のために、危険な箇所には危険・警告・注意の各ラベルが添付してあります。
このラベルの注意書きを必ず守って作業を行って下さい。守らずに作業をしますとケガをする場合があります。
又、各ラベルがはがれたり、読みずらくなった場合は即座に新しいラベルと交換し、同位置に貼り付けて下さい。
新しいラベルは当社にて準備しております。



警告

運転中はとびら内に手を入れないでください。可動部に接触してケガをします。
ケ-9

ラベルの説明

精米機タンクフタを外しますと、内部に可動部があり、これらを手で直接触ることができます。運転中にこれらに接触しますとケガをしますので、精米タンクの掃除など、なんらかの理由で手を入れる場合は運転を停止し、電源プラグを抜いておこなって下さい。
(注文コード`260-408-10)

警告

運転中はカバーを開けないでください。回転部分に接触するとケガをします。
ケ-1

ラベルの説明

ラベルが貼ってあるカバー(トビラ)を開けると内部に可動部があり、これらを手で直接触ることができます。運転中にこれらに接触しますとケガをしますのでカバー(トビラ)を開く場合は必ず電源プラグを抜いて下さい。
(注文コード`260-400-10)

注意

運転中及び運転直後は、モータに触らないでください。やけどをすることがあります。
チ-5

ラベルの説明

ラベルが貼ってあるカバー(トビラ)を開けると内部にモーターがあります。運転中はモーターが高温になっていますので、運転中及び運転直後はモーターに触らないで下さい。
(注文コード`260-434-10)

注意

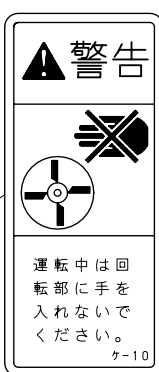
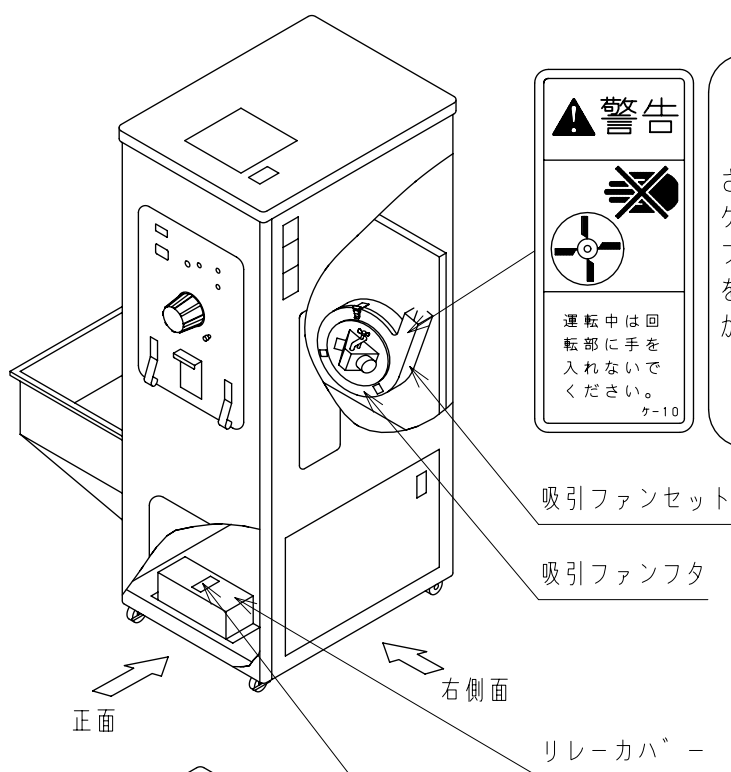
運転中は目にホコリが入りますから顔は近づけないでください。
チ-6

ラベルの説明

運転中にサイクロンを上からのぞきますと目にゴミなどがはいるり、目をいためますので運転中は絶対にのぞかないで下さい。
(注文コード`260-435-10)



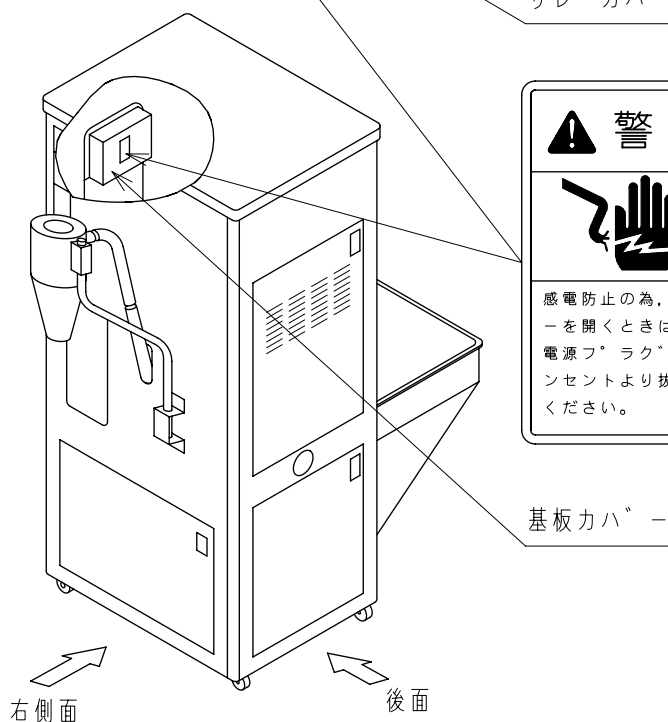
警告： 危険防止のために、危険な箇所には危険・警告・注意の各ラベルが添付してあります。
このラベルの注意書きを必ず守って作業を行って下さい。守らずに作業をしますとケガをする場合があります。
又、各ラベルがはがれたり、読みづらくなった場合は即座に新しいラベルと交換し、同位置に貼り付けて下さい。
新しいラベルは当社にて準備しております。



ラベルの説明

図示の吸引ファンセット内にはファンが収納されています。運転中にこれに接触しますと大ケガをします。運転する場合は必ず吸引ファンフタを閉めて下さい。又、点検、修理などでフタを開ける場合は必ず電源プラグをコンセントから抜いて下さい。

(注文コード`260-409-10)



ラベルの説明

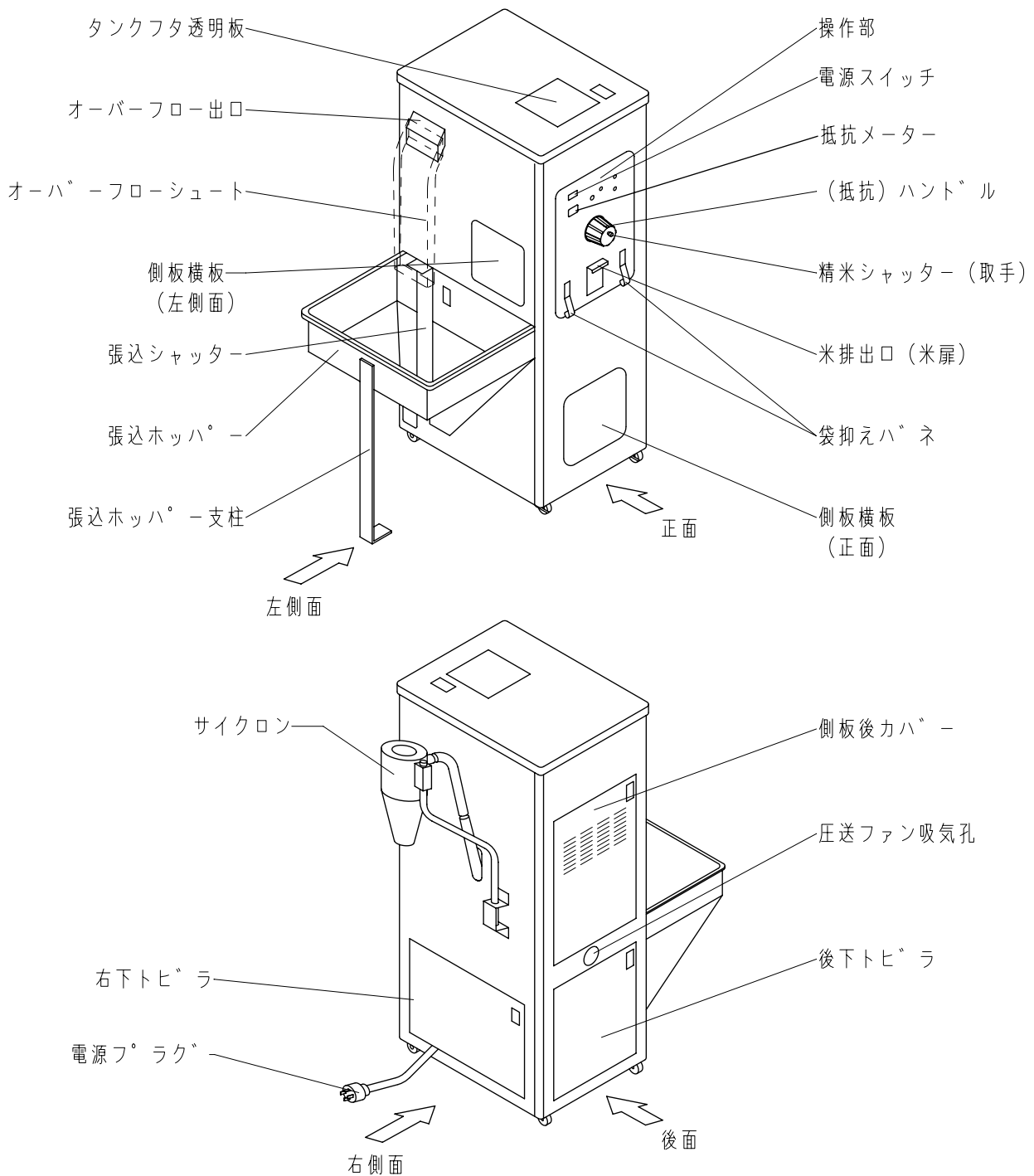
図示のカバーを外すと内部に電装品が収納されています。通電中に接触しますと感電します。運転する場合は必ずカバーを閉めて下さい。又、点検・修理などで電装部品を調べられる場合は必ず電源プラグをコンセントから抜いて下さい。

(注文コード`260-412-10)

2. ご使用になるまえに

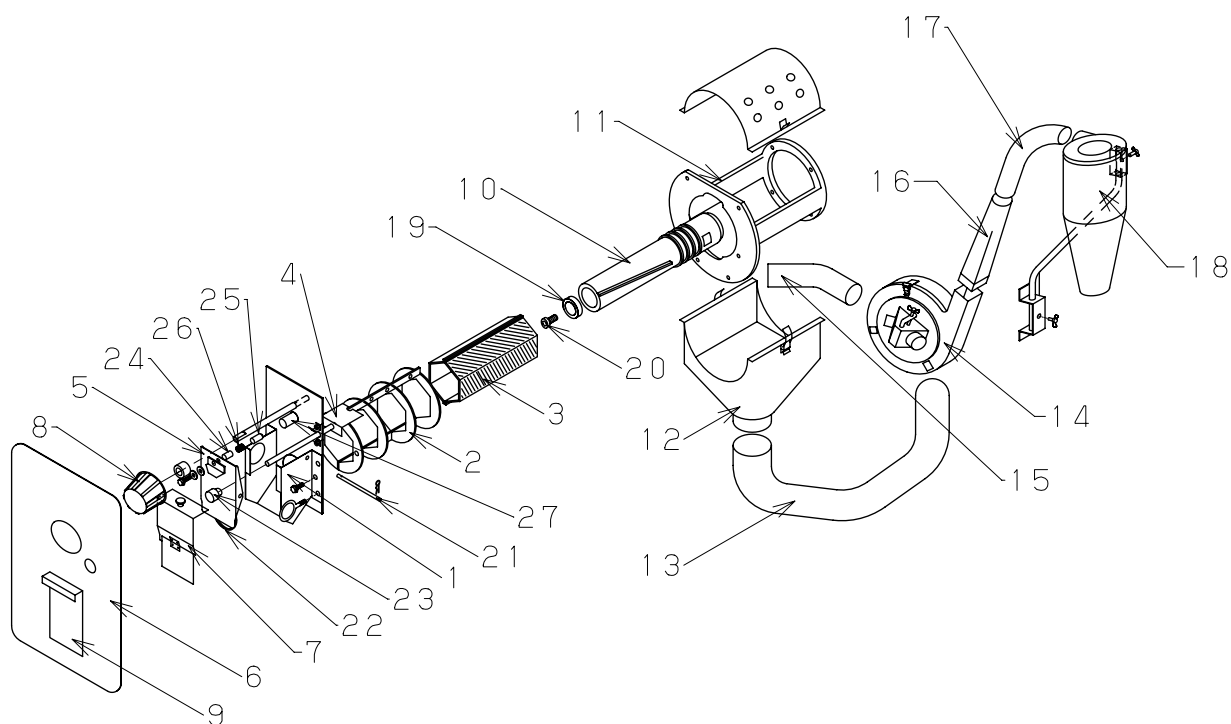
2-1. 本機の構成名称 _____ *

! 注意： ご使用前には必ず取扱説明書を熟読され、本機の性能及び装置を充分理解した上でお取扱い下さい。





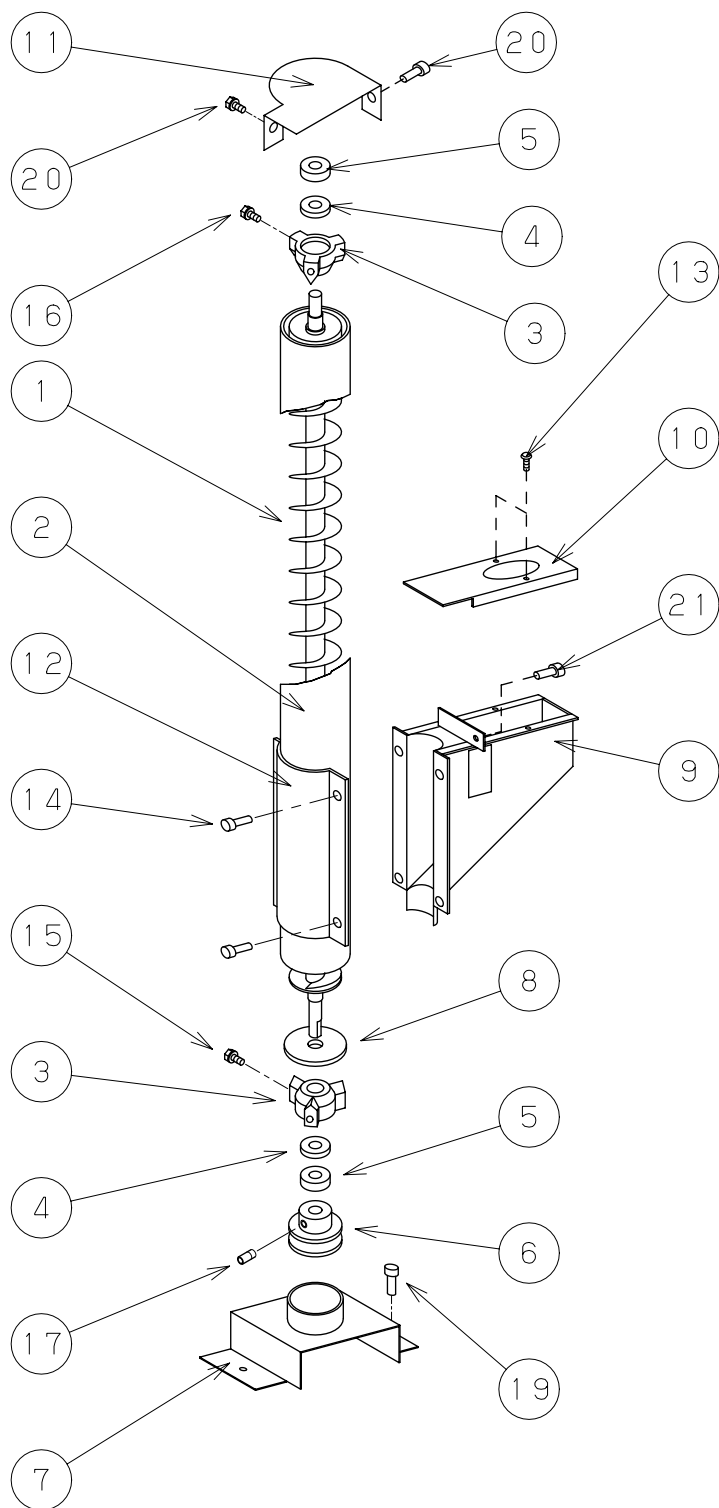
注意： ご使用前には必ず取扱説明書を熟読され、本機の性能及び装置を充分理解した上でお取り扱い下さい。



1	万石セット	15	粉殻吸引ホース
2	金網枠 (2枚セット)	16	吹上筒
3	金網 (2枚セット)	17	サイクロンホース
4	シャッター	18	サイクロンセット
5	主抵抗支杆	19	ロール押え
6	前カバー	20	ロール止めネジ (六角穴付M8×25)
7	FF取付板	21	主抵抗支杆軸
8	(抵抗)ハンドル	22	主抵抗板
9	米排出口 (米扉)	23	精米シャッター (取手)
10	精米ロール	24	主ハンドルロック (A)
11	本体前部	25	主ハンドルロック (B)
12	吸引シュートセット (φ62)	26	主抵抗スプリング
13	糠吸引ホース (φ62)	27	主抵抗支基ブッシュ
14	吸引ファンセット		



注意： ご使用前には必ず取扱説明書を熟読され、本機の性能及び装置を充分理解した上でお取扱い下さい。



1	スクリュウ軸セット
2	ユニコンフレーム (Ø60.5)
3	ユニコン軸受
4	オイルシール
5	ベアリング (6201 2NS)
6	ユニコンプーリー (Ø56)
7	タテコンベース
8	フェルトリング
9	ユニコンタンク支基
10	タンク支基上カバー
11	アテिताフタ
12	ユニコン取付板
13	タンク支基上カバー止めネジ (2ヶ所)
14	止めネジ (4ヶ所)
15	軸受下止めネジ (3ヶ所)
16	軸受上止めネジ (1ヶ所)
17	プーリー止めネジ (1ヶ所)
19	ベース止めネジ (2ヶ所)
20	アテिताフタ止めネジ (2ヶ所)
21	タンク支基止めネジ (1ヶ所)

2-4. 電氣的仕様の確認 *



警告： 本機を使用する場合の電気工事に関しては、電気工事資格者又は電気工事資格店にて本機の取扱説明書内に記載されている基準を十分満たす工事を実施すること。
自分で勝手に工事はなさないで下さい。
本機に悪影響を与え安全上支障をきたすことがあります。
又、既存の動力配線をお使いになる場合は本機の基準に適合している事を確認後本機を使用して下さい。

項目		機種	仕様
			GX-55EB型
毎時能力			玄米 220~260Kg/H・粳 140~160Kg/H
外形寸法	(本機のみ)		幅440 × 奥行612 × 高さ1214
	(サイクロン・ホッパ°-組)		幅1255 × 奥行612 × 高さ1278
タンク容量			張込ホッパ°- : 玄米30Kg/粳20Kg 精米タンク : 玄米30Kg/粳20Kg
白米排出高さ			650mm
張込ホッパ°-高さ			660mm
本機重量			110Kg
除糠装置			圧送ターボファン 吸引ターボファン FF装置付(粳カ°ラ・ワラクス°除去装置)
使用モーター			三相 3.7kw
開閉器			30A
コンセント			4P 20A
安全装置			過負荷保護装置(手動復帰型)

三相モーターの出力と各設備の容量(参考)

モーター	電圧	開閉器(A)	超過目盛電流計(A)	コンセント容量(A)	配線最小太さ		3線最大長さ(m)	アース線最小径	
					直径mm	(mm ²)		直径mm	(mm ²)
3.7Kw	(200V)	30A	15	20A	2.0	(3.5)	23	2.0	(3.5)

- (注) 1) 毎時能力は玄米の乾燥度合い・品質・米質・搗精時期などの諸要因により多少の変化があります。
2) 尚、仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。
3) 使用電源が、上記に示す電氣的な仕様を十分満足しているか確認して下さい。
4) 安全のために、必ずアース(接地工事をして)をとって下さい。



警告： 修理及び点検作業を行う場合は必ず元電源を切ってから実施して下さい。
感電など安全上支障をきたすことがあります。

- ◎ GX-55EB型に関する電源仕様及び電源に関する注意事項を
下記に示します。

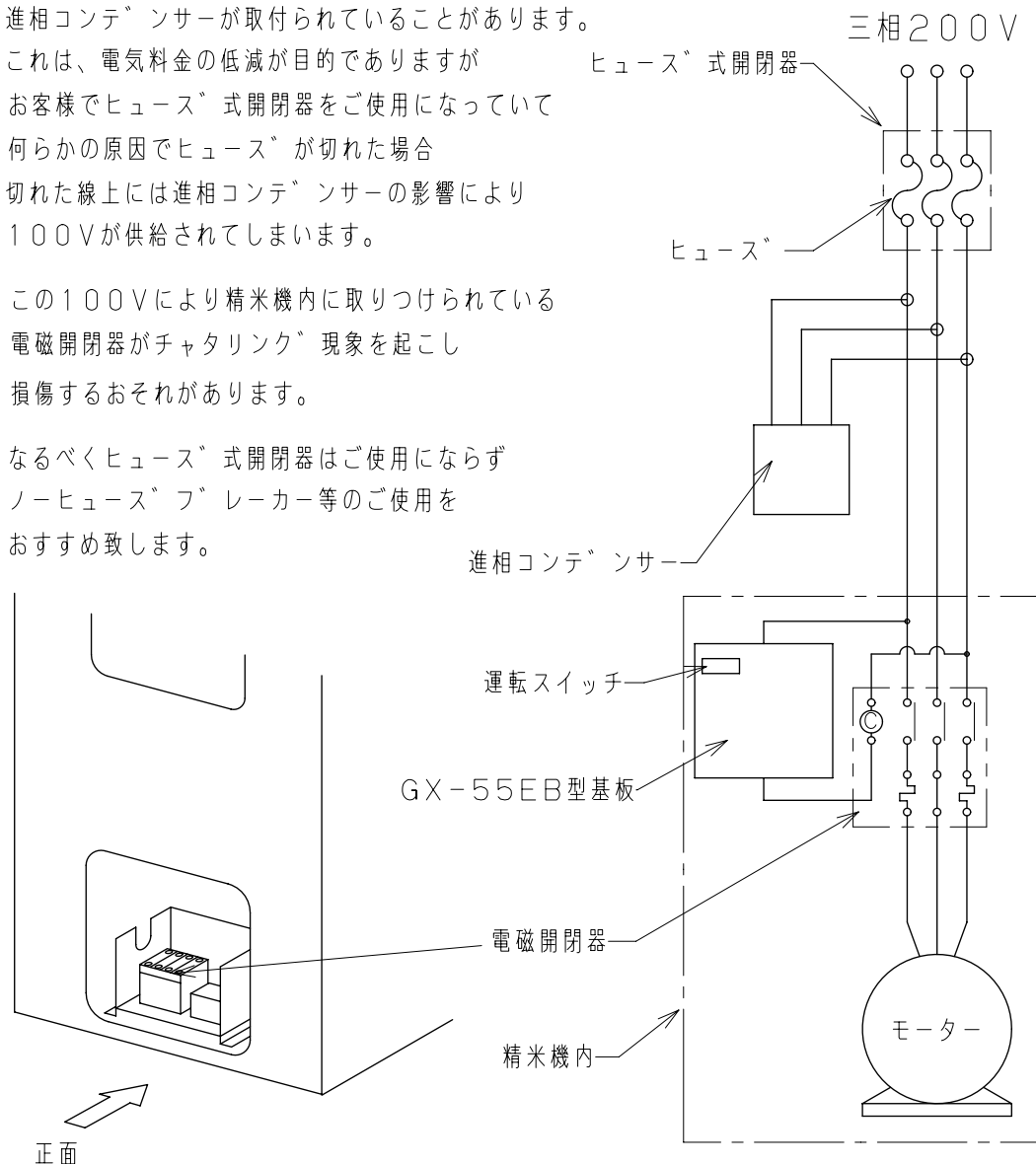
	電 源	モーター全容量	ブレーカー容量
GX-55EB型	三相200V	3.7Kw	30A以上

お客様での三相200V電源には右配線図に示すような
進相コンテ`ンサーが取付られていることがあります。

これは、電気料金の低減が目的であります
お客様でヒューズ`式開閉器をご使用になっていて
何らかの原因でヒューズ`が切れた場合
切れた線には進相コンテ`ンサーの影響により
100Vが供給されてしまいます。

この100Vにより精米機内に取りつけられている
電磁開閉器がチャタリング`現象を起し
損傷するおそれがあります。

なるべくヒューズ`式開閉器はご使用にならず
ノーヒューズ`ブレーカー等のご使用を
おすすめ致します。





注意： 作業を行う前には必ず取扱説明書を熟読され、本機を把握してから取扱説明書に従って作業を行って下さい。
本機の性能を充分発揮出来ず安全上支障をきたすことがあります。
作業する際には身の回りには充分気を配り、手をつぶしたりしないように注意して下さい。



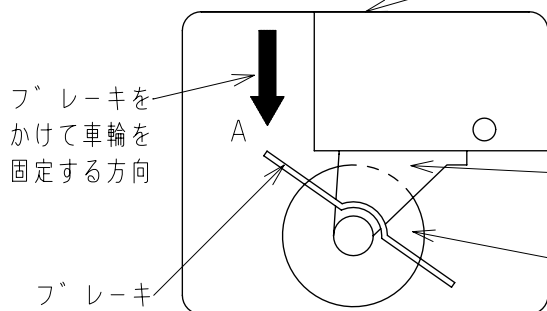
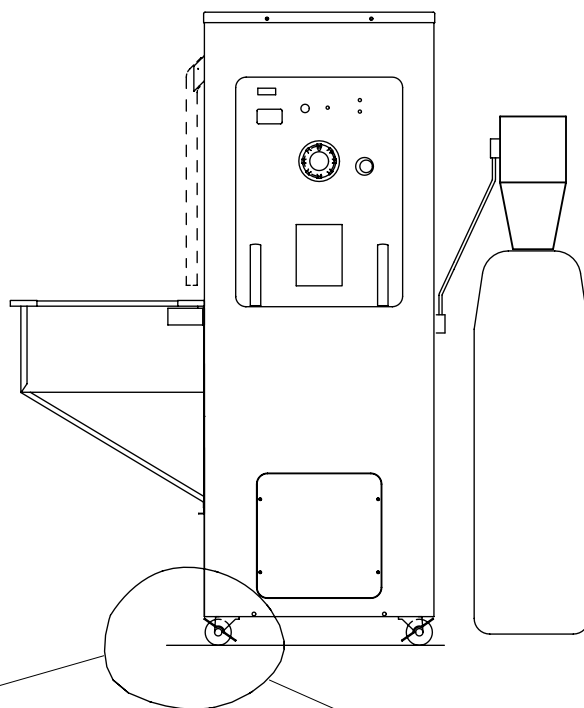
警告： 本機を設置する際は、準備作業を必ず取扱説明書通りに実施し本機の回りには決して過熱性の物・電気的な高容量物・コンプレッサー等のノイズ発生物などの危険な物は置かないようにして下さい。
又、設置する場所は板の間などの地盤が弱い所は絶対にさけて下さい。
本機に悪影響を与え安全上支障をきたすことがあります。

◎ 下記の手順にてキャスターのブレーキを、かけて車輪を固定して下さい。

尚、キャスターは正面2個が旋回型ブレーキ付
後面2個が固定型を使用しております。

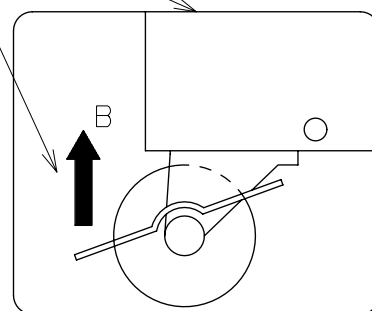
- 1) . 本機を所定の位置まで移動します。
- 2) . 下図に示すように
キャスターのブレーキを、矢印Aの方向に下げて下さい。
キャスターの車輪にブレーキがかかり車輪が固定されます
- 3) . 再度、本機を移動する場合はブレーキを矢印Bの方向に上げて車輪が自由になってから行って下さい。

注意：機体が水平になるように設置して下さい。



車輪が自由な状態

ブレーキをはずして車輪を自由にする方向

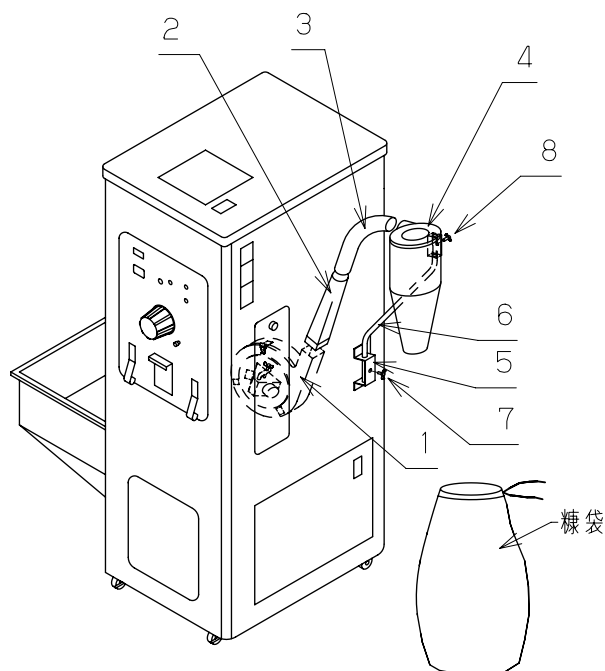


車輪が固定された状態



注意： 作業を行う前には必ず取扱説明書を熟読され、本機を把握してから
取扱説明書に従って作業を行って下さい。
作業する際には身の回りには充分気を配り、手をつぶしたりしないように注意して下さい。

◎ 下記に示す手順にてサイクロンを取付けて下さい。



1	吸引ファンセット
2	吹出筒
3	サイクロンホース
4	サイクロン
5	サイクロン支柱受
6	サイクロン支柱
7	支柱止ボルト (下)
8	支柱止ボルト (上)

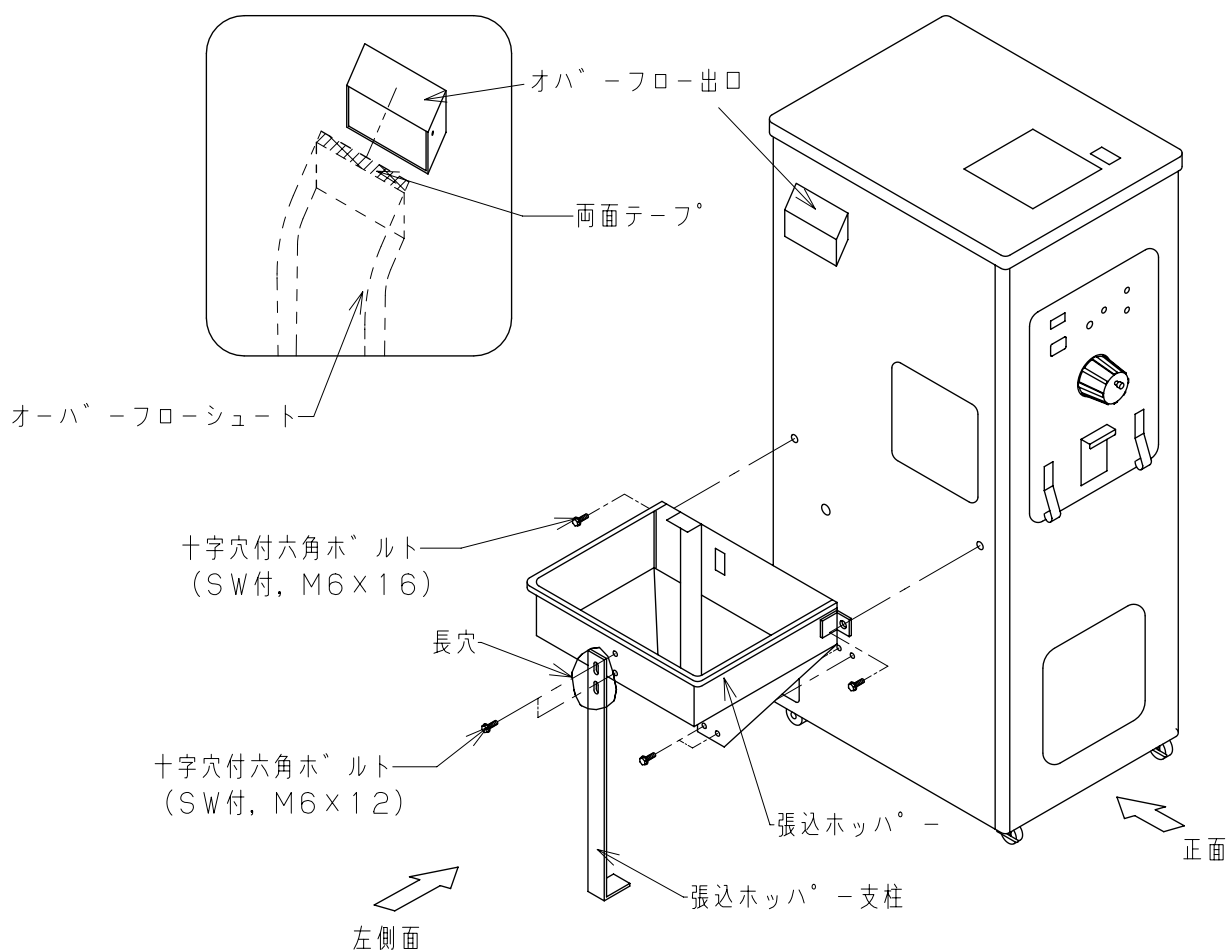
- 1) . 精米機右側面に長穴があります。
この長穴に吹出筒を入れ、精米機内の吸引ファンセットの吹き出し口にはめこみます。
- 2) . 吹出筒の上部にサイクロンホースをはめこみます。
- 3) . 精米機右側面に取り付けられているサイクロン支柱受の支柱止ボルト (下) をゆるめ
サイクロン支柱受の穴にサイクロン支柱を差込みます。
- 4) . サイクロンの支柱止ボルト (上) をゆるめ、サイクロン支柱を差込みます。
- 5) . サイクロンにサイクロンホースをはめこみます。(サイクロンと吹出筒がつながります)
- 6) . サイクロンの位置が決まりましたら、サイクロン・サイクロン支柱受の
支柱止ボルト (上) (下) をしめます。
- 7) . サイクロンの取り付けが終了しましたら、付属の糠袋をサイクロンの下に
取り付けて下さい。

注意：糠袋は約3俵程度の糠を収納することができます。
3俵以上になりますとサイクロン上部より糠が吹上げ、サイクロン・吸引ファン等の
糠詰まりの原因になりますので、3俵程度精米されましたら必ず糠の処理を行って下さい。



注意： 作業を行う前には必ず取扱説明書を熟読され、本機を把握してから
取扱説明書に従って作業を行って下さい。
作業する際には身の回りには充分気を配り、手をつぶしたりしないように注意して下さい。

◎ 下記に示す手順にて張込ホッパ° を取付けて下さい。



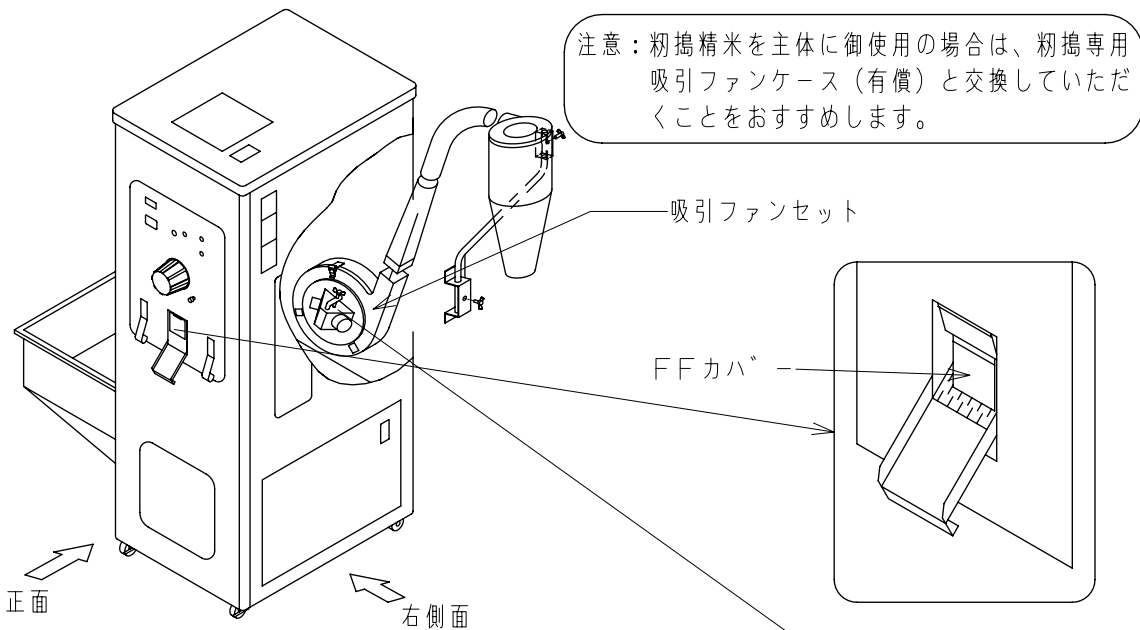
- 1) . 張込ホッパ° を本機左側面に十字穴付六角ボ°ルト (SW付、M6×16) にて4ヶ所止めて下さい。
- 2) . 張込ホッパ° に、張込ホッパ° 支柱を十字穴付六角ボ°ルト (SW付、M6×12) にて2ヶ所止めて下さい。
- 3) . オーバ° フローシュートの両面テープ° をはがして、オーバ° フロー出口に取り付けて下さい。

注意：張込ホッパ° 支柱は、長穴があけてあり高さの調節ができますので、支柱の下面と床面とに少しスキマをあけて下さい。支柱の下面と床面が接触しておりますと移動の際、支柱が曲がる場合があります。



注意： 作業を行う前には必ず取扱説明書を熟読され、本機を把握してから取扱説明書に従って作業を行って下さい。
作業する際には身の回りには充分気を配り、手をつぶしたりしないように注意して下さい。

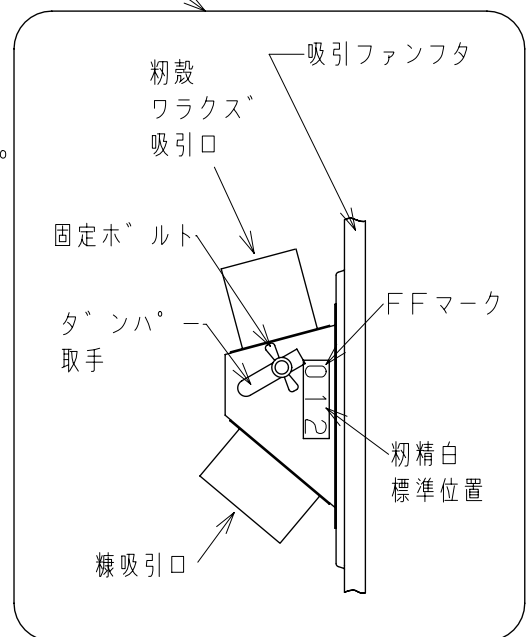
◎ フロートフィルター（粉殻・ワラクス[®] 吸引装置）の取扱いについて



本機には粉精白時に粉殻・ワラクス[®]等を、きれいに除去する為に、フロートフィルター（粉殻・ワラクス[®]吸引）装置が設けてあります。

- 1) . 玄米精白の場合：タ^ンハ[°]ー取手を0の位置に合せて下さい。（固定ホルトでしっかり固定）
- 2) . 粉精白の場合：タ^ンハ[°]ー取手を0～2の間に合わせお米が吸われないよう調節して下さい。（固定ホルトでしっかり固定）
- 3) . FFカバーは、垂れ下がった状態で御使用下さい。持ち上がった状態で御使用になりますと、粉殻や藁すべなどの吸引が弱くなります。

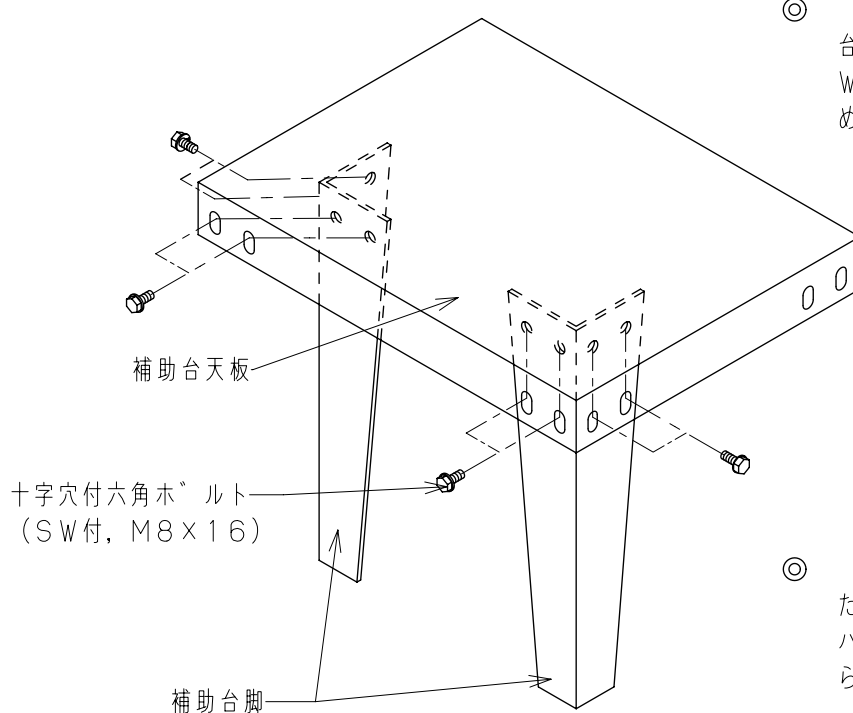
（注意）：粉精白の場合、標準位置で粉殻・ワラクス[®]の取れが悪い場合、タ^ンハ[°]ー取手を標準位置より少し強方向に合せて下さい。サイクロンに米が飛ばないように注意のこと。





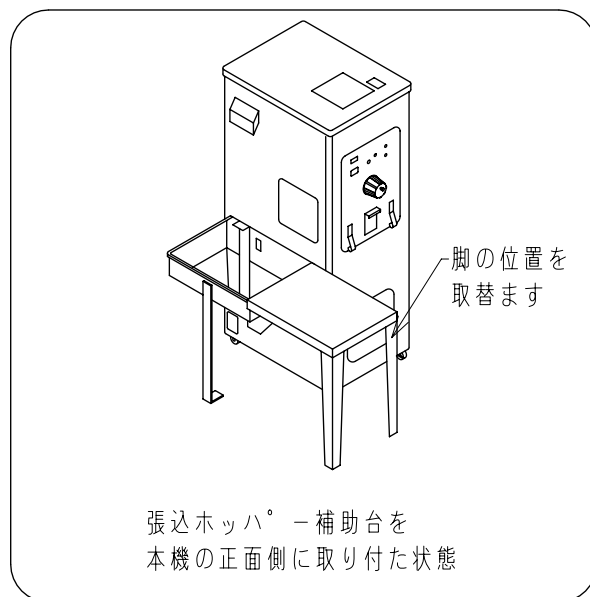
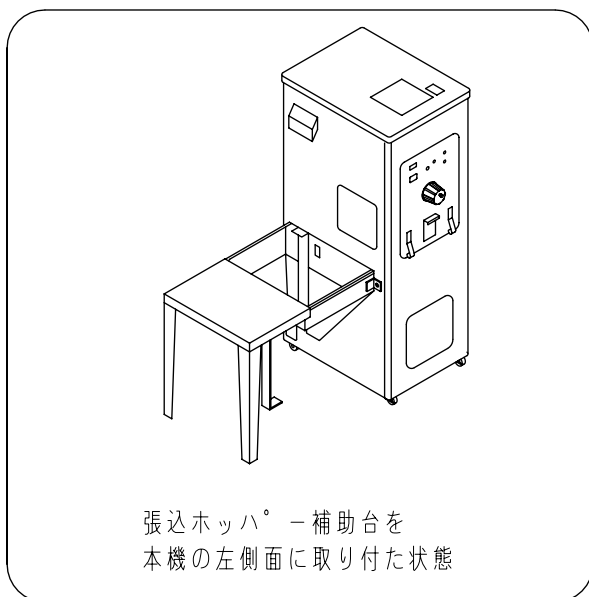
注意： 作業を行う前には必ず取扱説明書を熟読され、本機を把握してから取扱説明書に従って作業を行って下さい。
作業する際には身の回りには充分気を配り、手をつぶしたりしないように注意して下さい。

◎ 張込ホッパ°-補助台 (オフ°ション品) の組立について



◎ 左図のように、補助台天板に補助台脚を十字穴付六角ボルト (SW付、M8×16) にて8ヶ所止めて下さい。

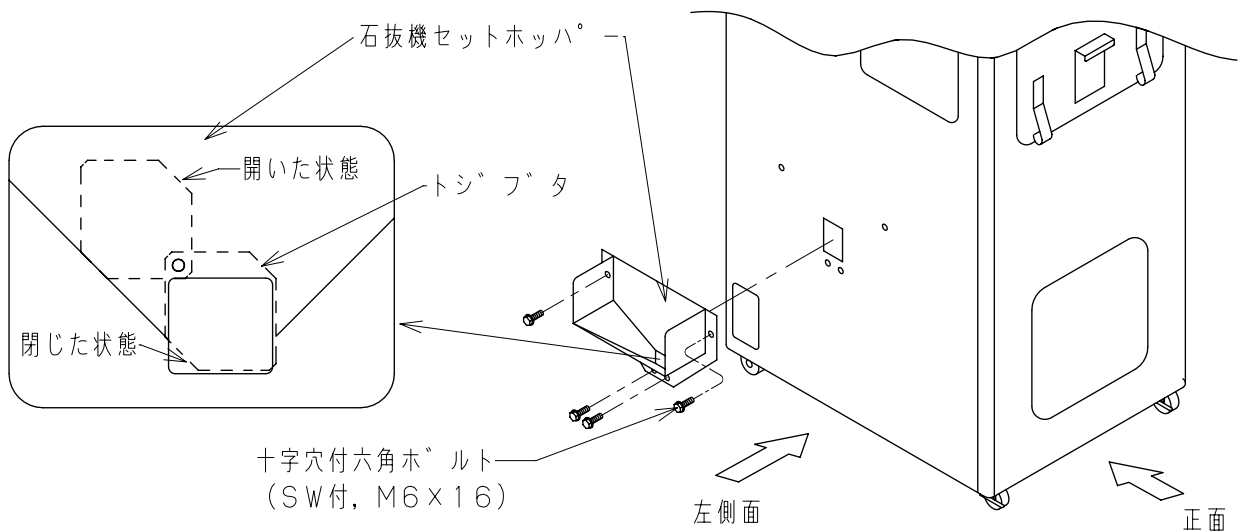
◎ 補助台脚の取り付け位置を変えただくと、下図のように張込ホッパ°-補助台の取り付け位置が変わります。





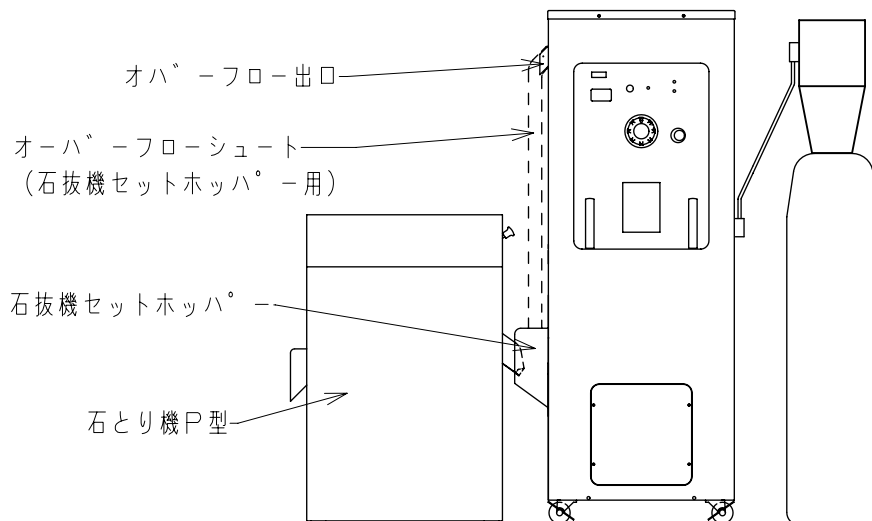
注意： 作業を行う前には必ず取扱説明書を熟読され、本機を把握してから
取扱説明書に従って作業を行って下さい。
作業するには身の回りには充分気を配り、手をつぶしたりしないように注意して下さい。

◎ 石拔機セットホッパー（オプション品）の取り付けについて



○ 上図のように、石拔機セットホッパーを本機左側面に十字穴付六角ボルト（SW付，M6×16）にて4ヶ所止めて下さい。

（注意）：石拔機とセットで運転中は、セットホッパーのトシフタを左に回し（開い）て下さい、又使用後は、右に回し（閉じ）て下さい。



・左図のように、石拔機と本機を組み合わせしてお使い下さい。

・また本機のオーバーフロー出口から出てくる玄米（粉）を石拔機セットホッパーに戻す為に、オーバーフローシュート（石拔機セットホッパー用）をお使い下さい。

マルマス 石とり機P型と組み合わせた状態

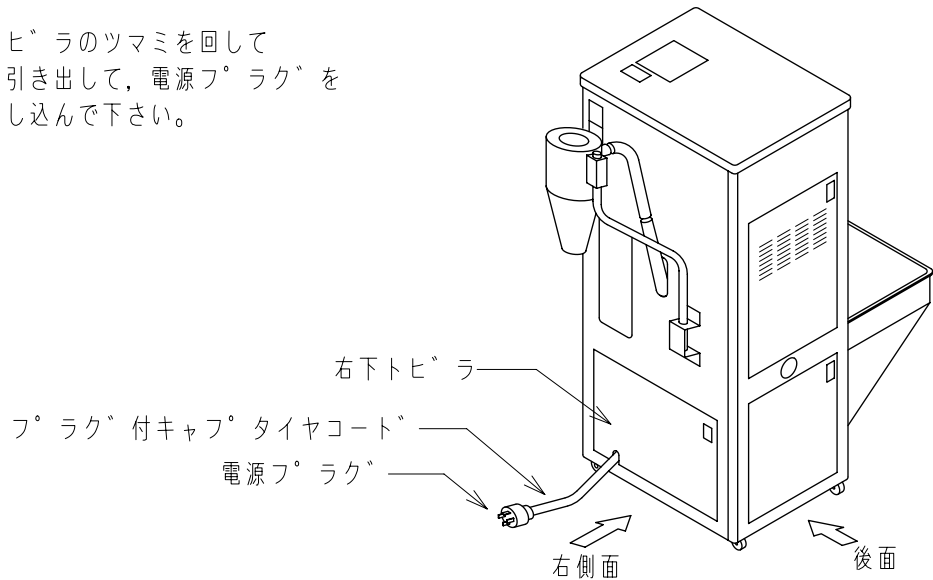
2-12. 電源の接続に関して

*



注意： 作業を行う前には必ず取扱説明書を熟読され、本機を把握してから
取扱説明書に従って作業を行って下さい。
作業するには身の回りには充分気を配り、手をつぶしたりしないように注意して下さい。

- ◎ 精米機の右下トビラのツマミを回して
中のコードを引き出して、電源プラグを
コンセントに差し込んで下さい。



2-13. 回転方向の確認に関して

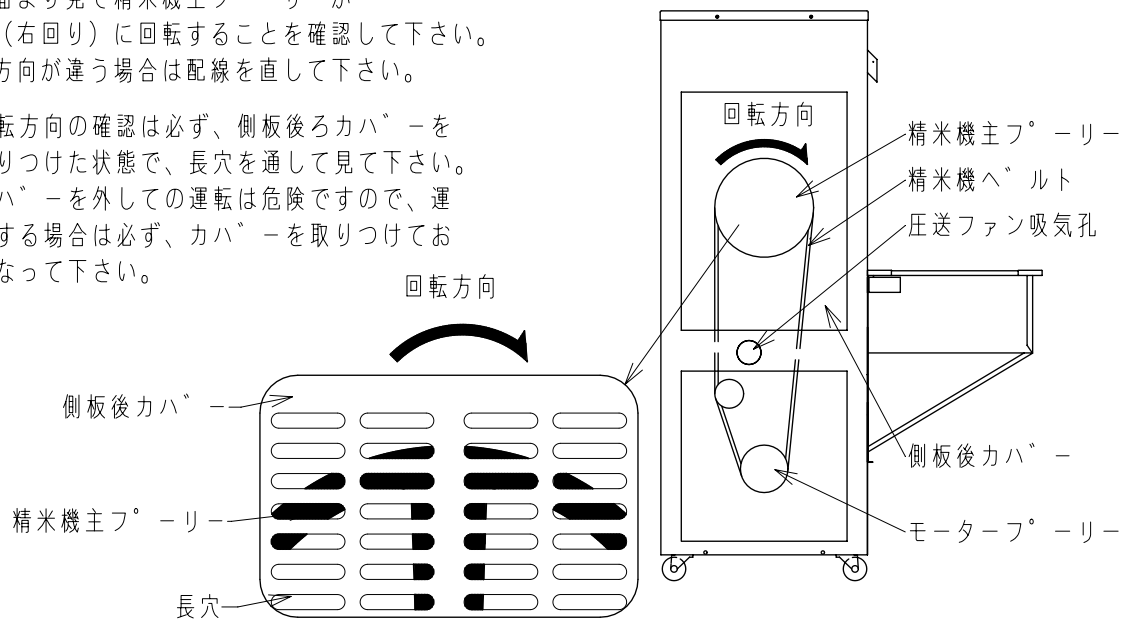
*



注意： 作業を行う前には必ず取扱説明書を熟読され、本機を把握してから
取扱説明書に従って作業を行って下さい。
作業時には身の回りには充分気を配りベルトに手をはんだりしないように注意して下さい。

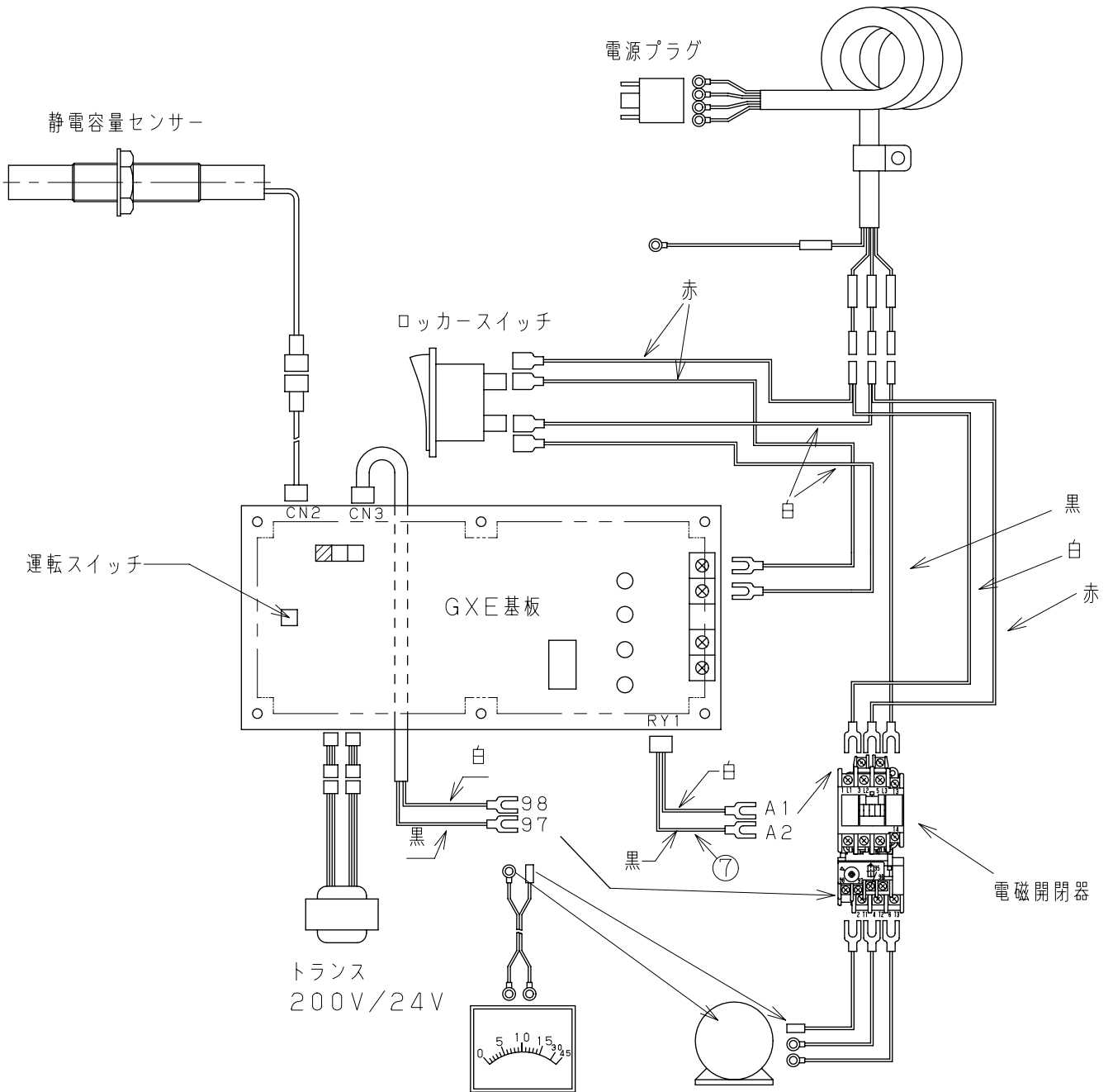
- ◎ 精米機背面より見て精米機主プーリーが
時計方向（右回り）に回転することを確認して下さい。
又、回転方向が違う場合は配線を直して下さい。

(注意)： 回転方向の確認は必ず、側板後ろカバーを
取りつけた状態で、長穴を通して見て下さい。
カバーを外しての運転は危険ですので、運
転する場合は必ず、カバーを取りつけてお
こなして下さい。



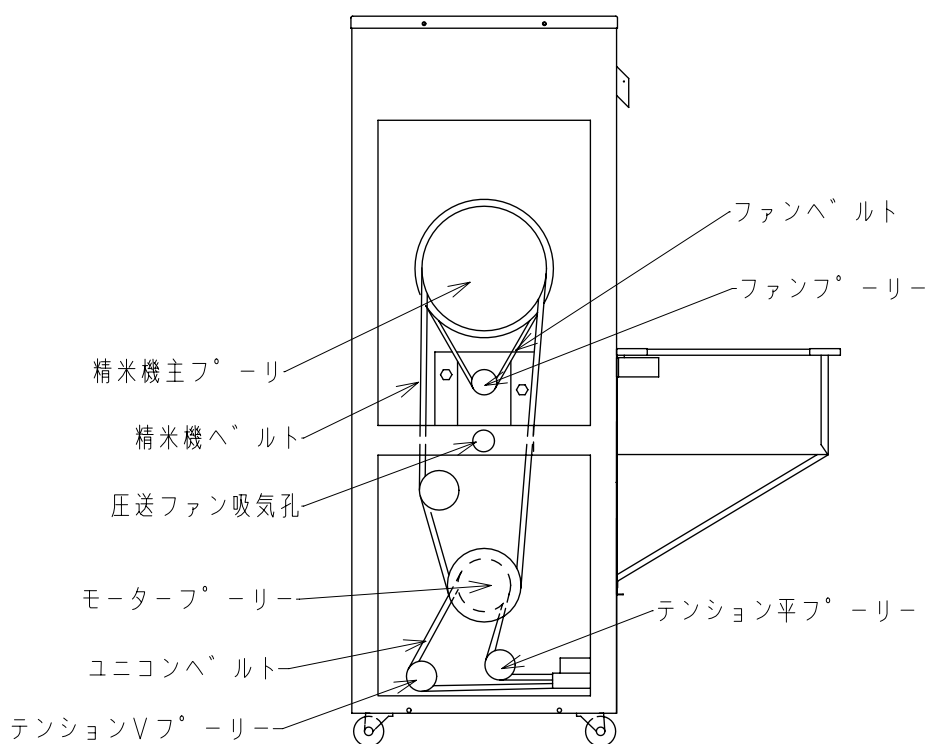


警告： 点検・作業を行う場合は、必ず電源プラグを抜いて下さい。
安全上支障をきたす場合があります。





警告： 作業を行う場合、必ず電源プラグを抜いて下さい。
感電する危険性があります。



使用ベルト明細表

名称	使用数	ベルトサイズ
精米機ベルト	2	60Hz→Vベルト B-65" (レッド) 50Hz→Vベルト B-66" (レッド)
ファンベルト	1	Vベルト M-35" (レッド)
ユニコンベルト	1	Vベルト SA-37" (レッド)

3. 運転方法

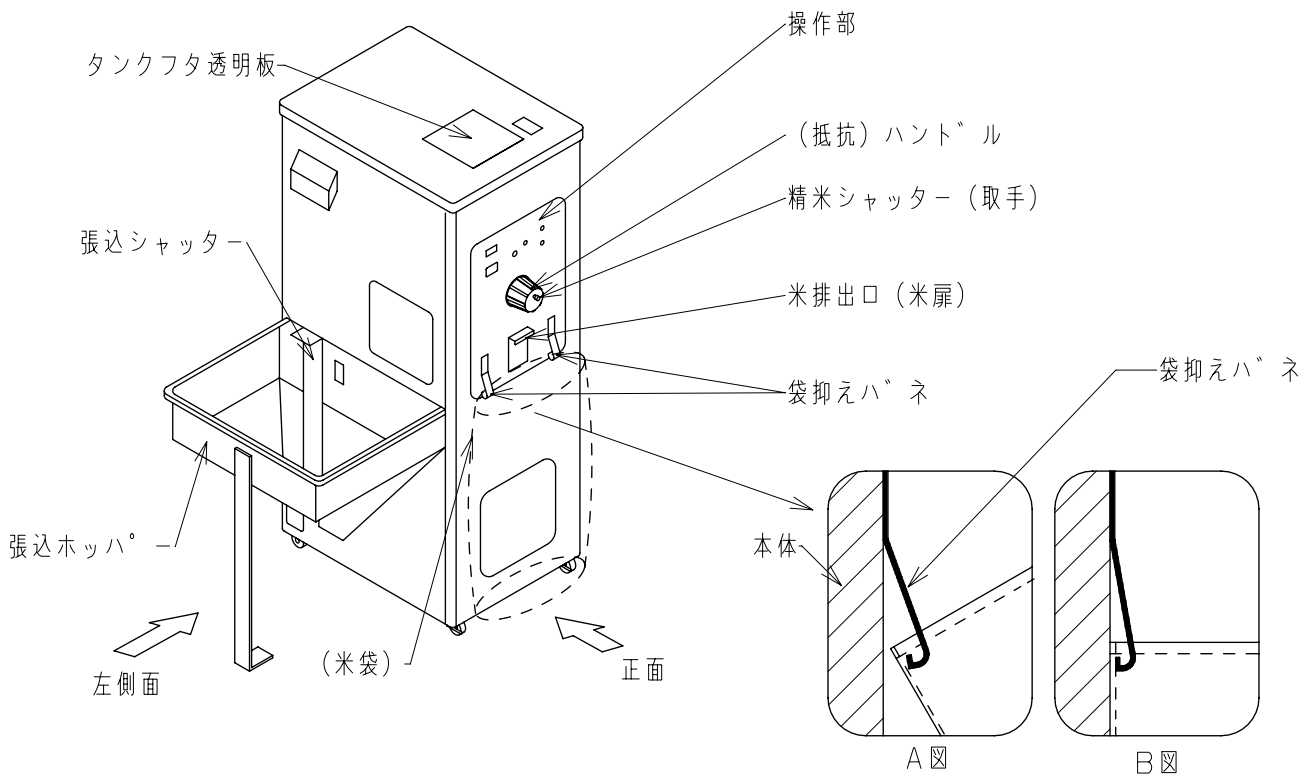
3-1. 各操作箇所の説明

*



注意： ご使用前には必ず取扱説明書を熟読され、本機の性能及び装置を充分理解した上でお取扱い下さい。

● 下記に操作箇所の用途を説明します。

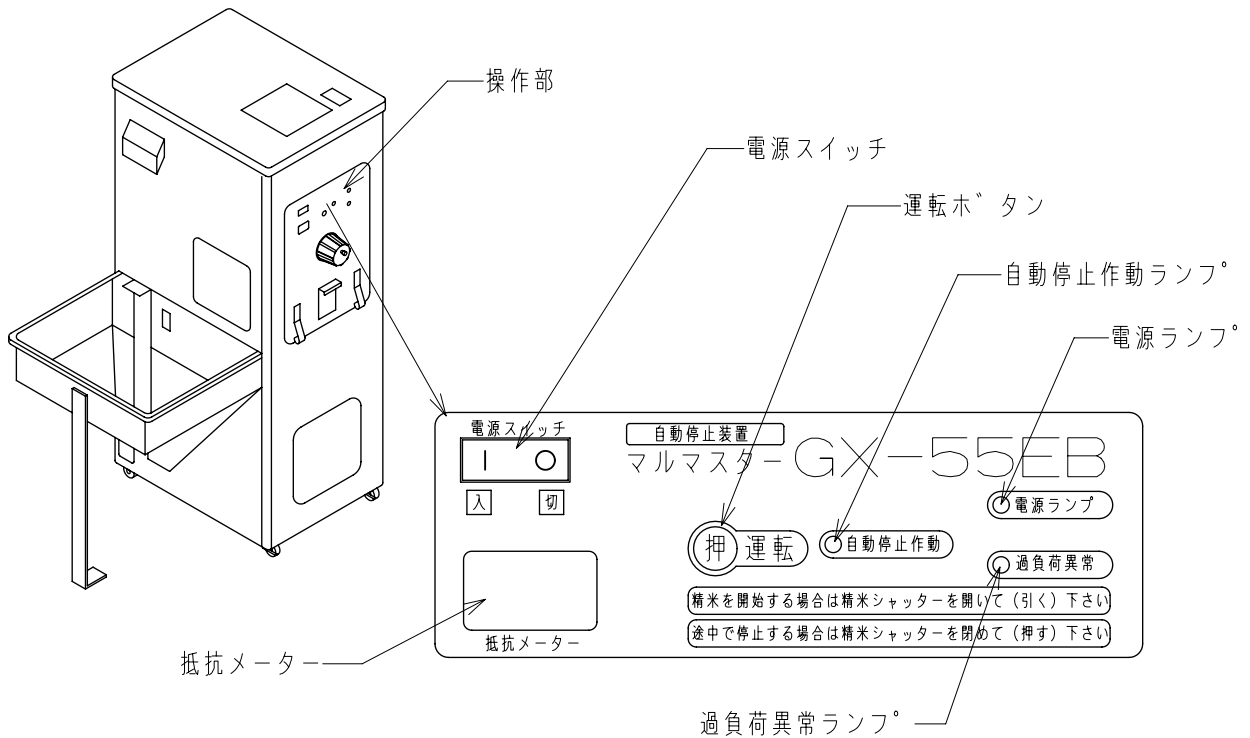


名 称	用途及び説明
操作部	精米機を作動させる箇所です。(詳細は操作部の説明参照のこと)
タンクフタ透明板	精米タンクに米が残っているか確認して下さい。
張込ホッパー	玄米(又は、粳)を張込ます。
張込シャッター	玄米(又は、粳)を精米タンクへ揚上する時に、上げて(開いて)下さい。
(抵抗)ハンドル	米の白度を調整します。(精米開始時は必ず”0”位置にして下さい。)
精米シャッター(取手)	精米を始めるときに引いて下さい。(運転しない時は必ず閉めて下さい。)
米排出口(米扉)	ここを開きますと外部に米が排出されます。(詳細は戻し万石の説明を参照のこと)
袋抑えハネ	A図の様にハネを引き米袋を入れ、B図の様に本体とハネで米袋をはさんで下さい。



注意： ご使用の前には必ず取扱説明書を熟読され、本機の性能及び装置を充分理解した上でお取り扱い下さい。

◎ 下記に操作箇所の使用を説明します。

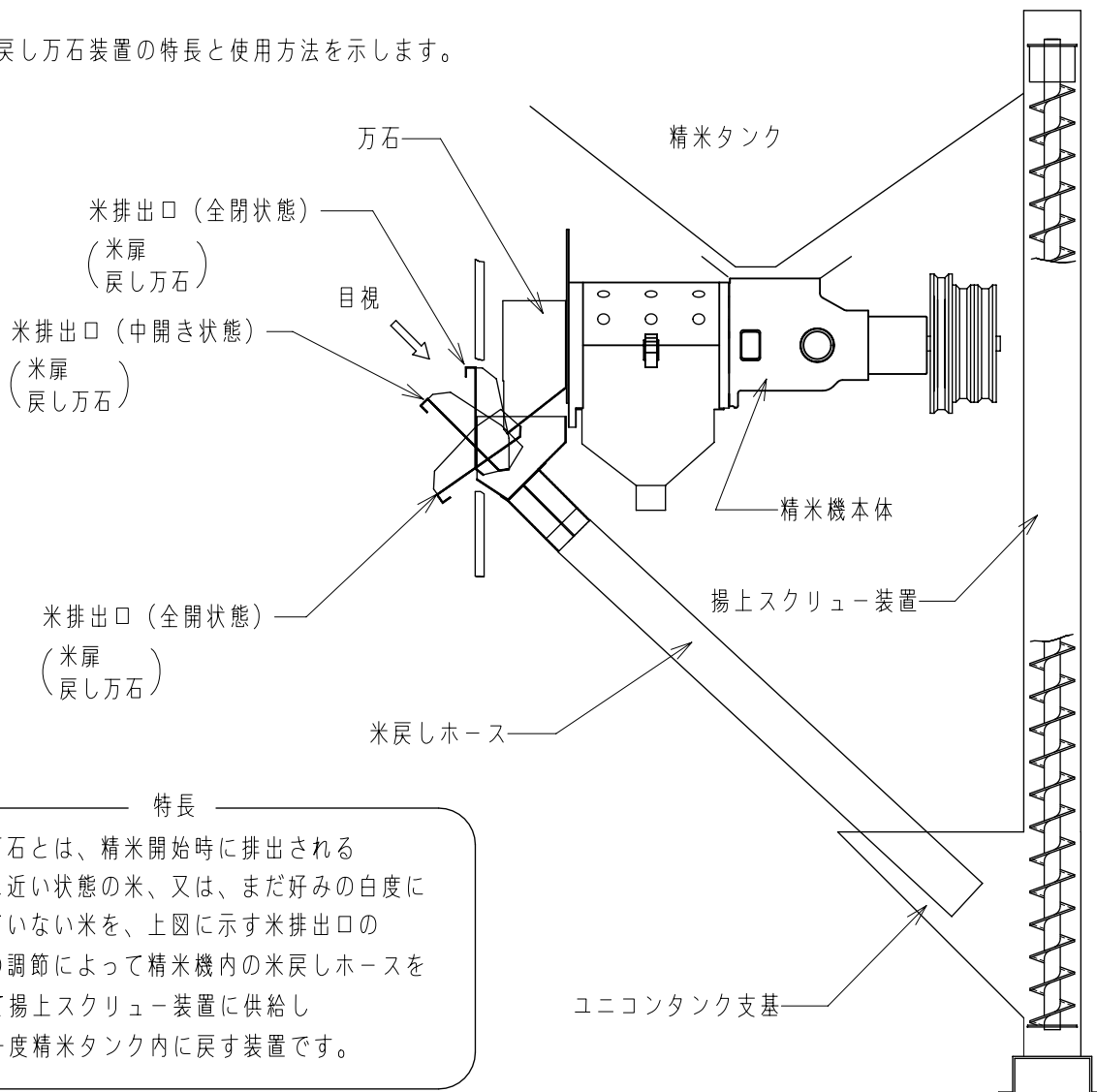


名 称	用途及び説明
電源スイッチ	”入”にすると運転可能な状態になり、”切”にするとすべての運転が停止します。
	張込運転だけを行う場合は作業終了後、このスイッチを”切”にして運転を停止して下さい。
	非常停止を行う場合は、このスイッチを”切”にして運転を停止して下さい。
運転ホッタン	運転ホッタンを押すと本機が運転を開始します。
電源ランプ	電源スイッチを”入”にすると、点灯します。
自動停止作動ランプ	精米シャッターを開(引)いて精米機本体に米が入ると、自動停止可能な状態となり点滅します。
	注意：精米シャッターが閉じた状態でも、非常停止等で電源スイッチで運転を停止した直後の運転又、停電が復旧した直後の運転などのときは、精米機本体に米が残っている場合がありますので、自動停止作動ランプが点滅することがあります。
過負荷異常ランプ	本機が過負荷異常状態となった時に、点灯します。
抵抗メーター	抵抗メーターは、モーターの負荷を読み取っています。



注意： ご使用前には必ず取扱説明書を熟読され、本機の性能及び装置を充分理解した上でお取扱い下さい。

◎ 下記に戻し万石装置の特長と使用方法を示します。



特長

戻し万石とは、精米開始時に排出される玄米に近い状態の米、又は、まだ好みの白度になっていない米を、上図に示す米排出口の開度の調節によって精米機内の米戻しホースを使って揚上スクリュウ装置に供給しもう一度精米タンク内に戻す装置です。

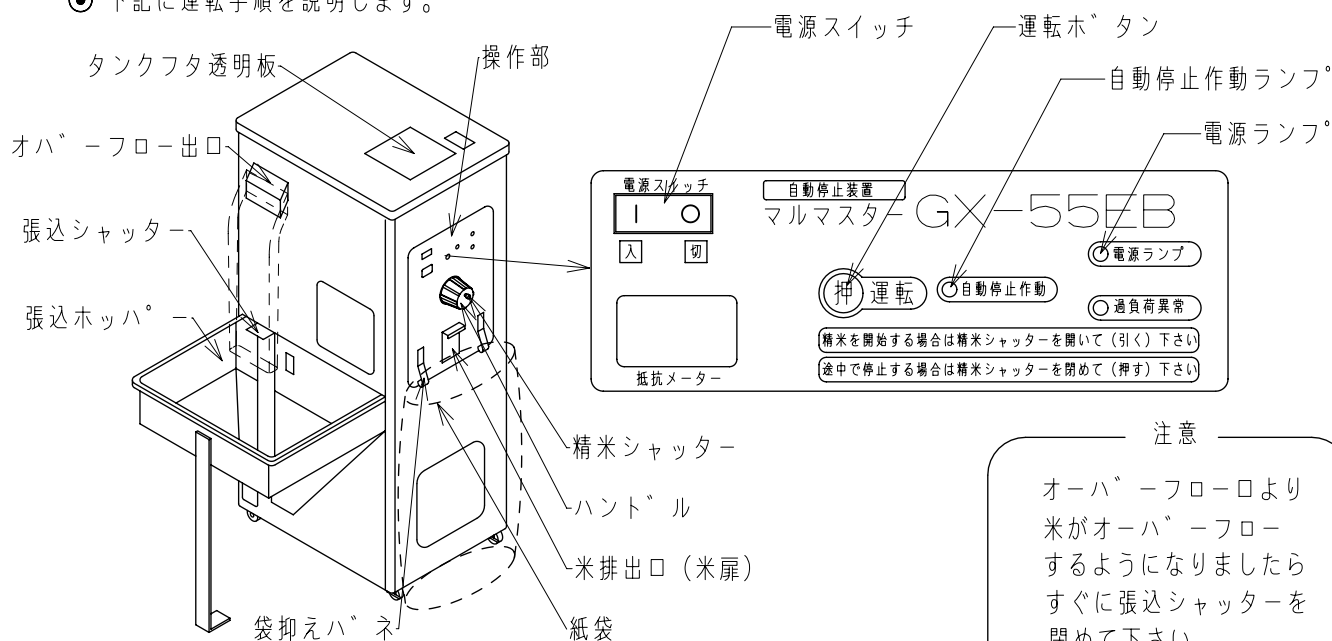
使用方法

- 1) . 精米機を作動させます
- 2) . 米排出口（全閉状態）を中開き状態にします。
- 3) . 精米タンクに1/3程度米がたまりましたら、張込シャッターを閉めます。
- 4) . 精米シャッターを引き、万石から排出される米を目で見ながら白度を調節します。
- 5) . お好みの白度になりましたら、米排出口を全開状態にして外部へ米を排出します。
- 6) . 張込シャッターを開け、精米タンクに米を張込みます。



注意： ご使用の前には必ず取扱説明書を熟読され、本機の性能及び装置を充分理解した上でお取り扱い下さい。

● 下記に運転手順を説明します。



注意

オーフロー口より米がオーフローするようになりましたらすぐに張込シャッターを閉めて下さい。碎米の原因になります。

※ 運転前には必ず万石セットボルトの締め具合を確認して下さい。

- 1) . 張込シャッター・精米シャッターが閉まっていることを確認します。
- 2) . 張込ホッパに米を張込む。
- 3) . 米排出口からの白米を受ける容器又は、袋等をセットして下さい。(紙袋等の場合は、袋抑えではさんで下さい。)
- 4) . 電源スイッチを”入”にします。(電源ランプが点灯していることを確認して下さい。)
- 5) . 運転ボタンを押すと精米機が回転します。
- 6) . 米排出口(米扉)を中開き状態にする。(戻し万石の説明参照)
- 7) . 張込シャッターを引く。
- 8) . タンクフタ透明板から精米タンクにある程度(約1/3)米がたまったのを確認してから精米シャッターを引く。
- 9) . 自動停止作動ランプが点滅しているのを確認して下さい。
- 10) . (抵抗)ハンドルを回し白度を調節する。
- 11) . 米排出口より米の白度を目視し、お好みの白度になりましたら米排出口(米扉)を全開にし米を外部に排出します。(戻し万石の説明参照)
- 12) . 精米が終了すると、精米機は自動停止します。
- 13) . 自動停止したら、精米シャッター・張込シャッター・米排出口(米扉)を閉め、(抵抗)ハンドルを”0”に戻して下さい。
- 14) . 電源スイッチを”切”にして下さい。



注意： ご使用の前には必ず取扱説明書を熟読され、本機の性能及び装置を充分理解した上でお取り扱い下さい。

◎ 下記に運転の注意点を説明します。

1) . 標準米による運転の注意点

- ・普通標準米は、水分15%前後です。16%~17%は高水分米、又水分13%以下は過乾燥米（硬質米）になります。
- ・米の乾燥具合に応じて抵抗のかけ方を調節して下さい。

2) . 餅米による運転の注意点

- ・餅米は糠層が厚く搗きにくいので、2度搗して下さい。
- ・一回目は、8~9歩搗（抵抗をかけすぎない）として二回目で仕上げして下さい。きれいに歩留りも良く仕上がります。

3) . 屑米による運転の注意点

- ・屑米は砕米になり安いお米です。
- ・一回目は、抵抗をかけすぎないようにして二回目で仕上げして下さい。きれいに歩留りも良く仕上がります。

4) . 粉から精米する場合の注意点

- ・粉の状態が、特にシイナ、ワラクス`等の多い場合は、唐箕等で再選別してから御使用下さい。
- ・粉からの精米も一度で、できますが、粉殻のあくがついたり、砕米も多くなりますので、二度搗をおこなって下さい。その場合一回目で粉殻が取れる程度とし、二回目で仕上げてください。（又、フロートフィルターの切り換えについては、粉、玄米時の切り換えを参照のこと）

5) . あやまった運転をしたときは（逆転、停電等のばあい）

- ・精米機の回転方向は、機体後面より見て時計方向（右回り、回転方向の確認に関して参照）ですが、あやまって逆転した時又、停電などで米粒が精米機内に、詰まった時などは下記のようにして下さい。

運転中停電になった時

- 1) . 電源スイッチを”切”にし、電源フ`ラク`をコンセントから抜いて下さい。
- 2) . 精米シャッターを閉じて、抵抗を”0”にして下さい。
- 3) . 停電が復旧したのを確認してから、電源フ`ラク`をコンセントに差込んで下さい。
- 4) . 電源スイッチを”入”にし、運転ホ`タン`を押す、精米機本体のお米を排出して下さい。

逆転した時

- 1) . 電源スイッチを”切”にし、電源フ`ラク`をコンセントから抜いて下さい。
- 2) . 精米シャッターを閉じて、抵抗を”0”にして下さい。
- 3) . 揚上スクリュウ`装置のベ`ルト`が、外れていないか確認してください
- 4) . 本体内部の床面等にこぼれたお米を、掃除機等で掃除して下さい
- 5) . 電源フ`ラク`をコンセントにいれて下さい。
- 6) . 電源スイッチを”入”にし、運転ホ`タン`を押す、精米機本体のお米を排出して下さい。

※玄米排出方法（玄米排出機構）

玄米排出目盛りに抵抗ハンドルの位置を合わせると、精米しないで玄米のみ排出されます。
お米に対する嗜好の広がりから玄米に付着、混入した粉塵の除去ができ、より良い玄米を得る事が出来ます。

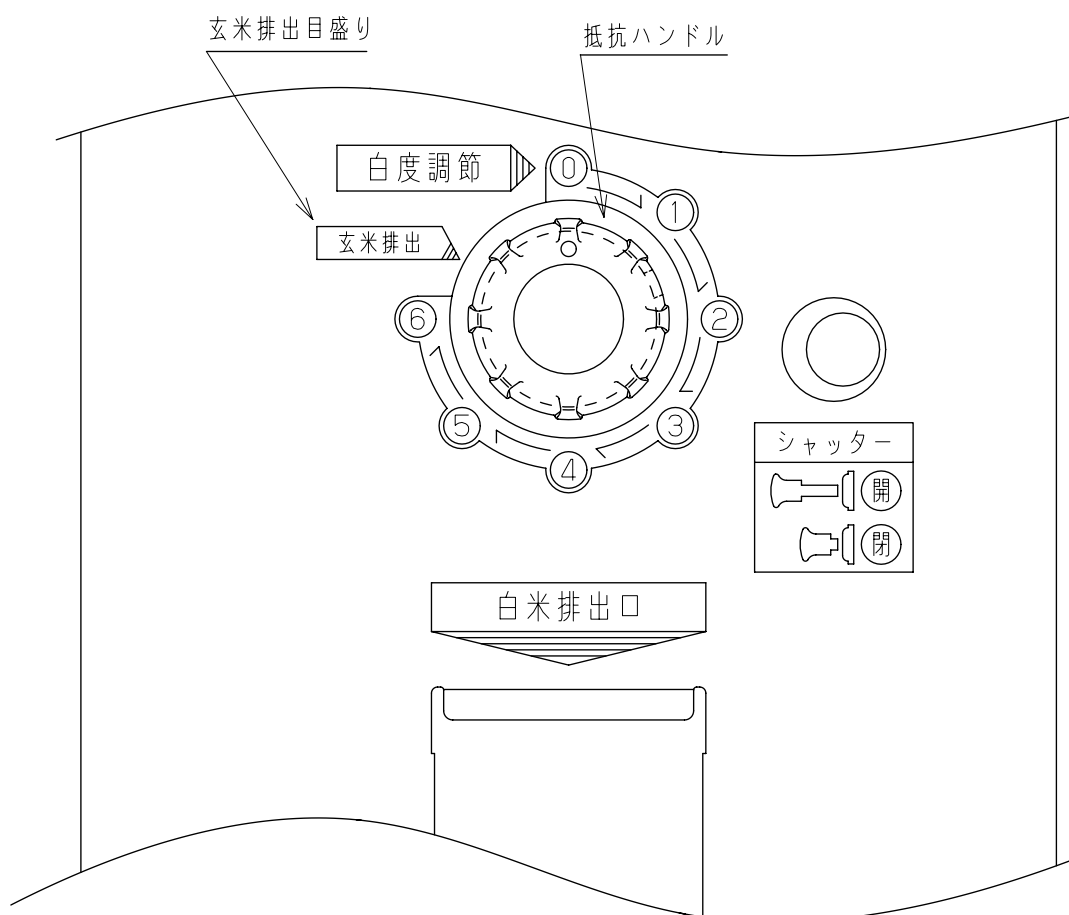
注意

GX-55EB型は搗精部に残留米が残りますので、残留米を取り除いてから玄米排出を行ってください。
（最初に残留米が混入します。）

※無段階抵抗カム

精米白度調節に無段階抵抗カムを採用し3ぶ搗きから精白米まで、お客様の嗜好にそった精米が出来るよう新しい抵抗カムが採用されておりますので、胚芽米や発芽米まで幅広く精米することが出来ます。

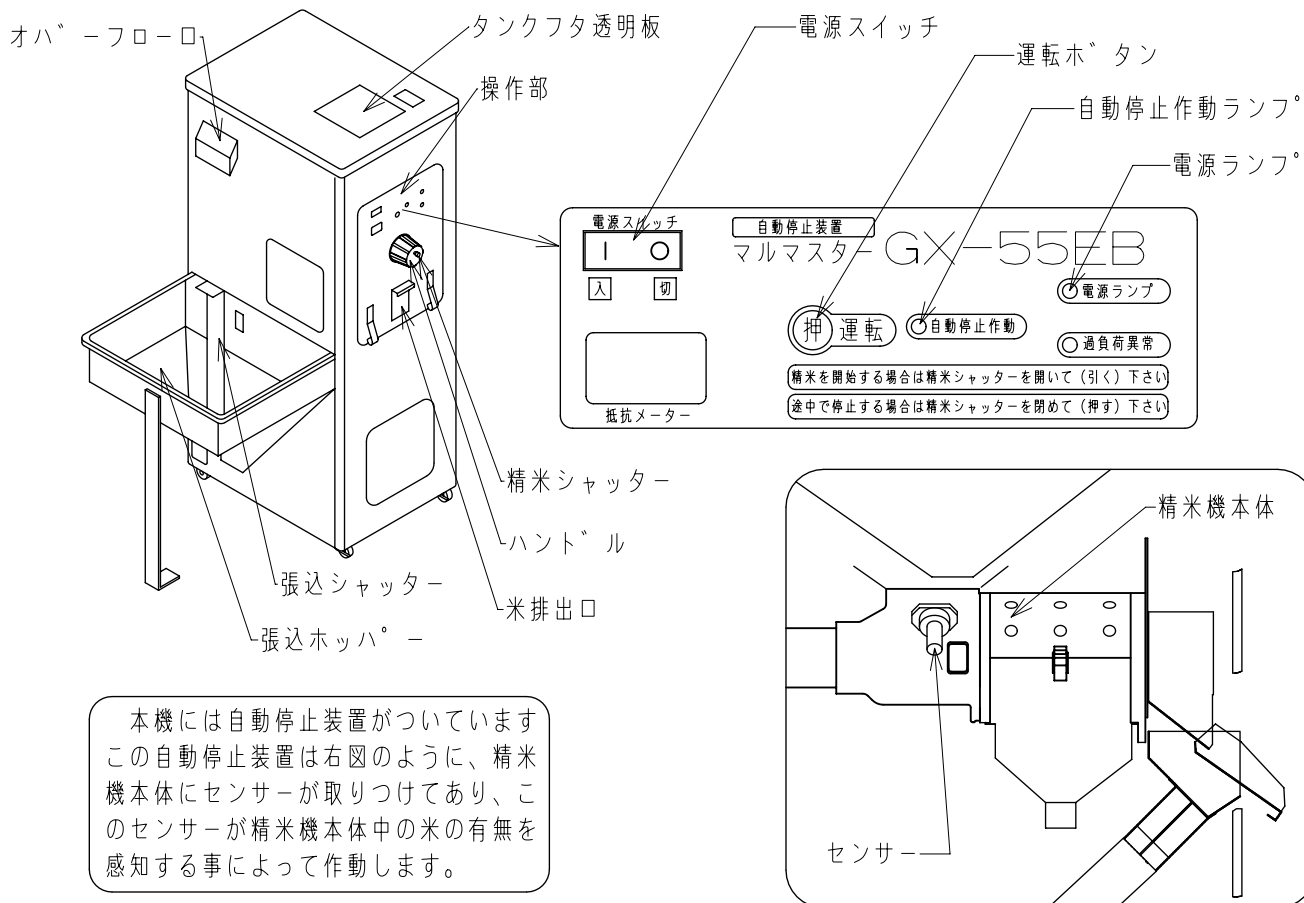
◎発芽米は胚芽米を炊飯前30～40分程度水を浸してから、炊飯してください。





注意： ご使用前には必ず取扱説明書を熟読され、本機の性能及び装置を充分理解した上でお取扱い下さい。

◎ 下記に自動停止の説明します。



本機には自動停止装置がついています。この自動停止装置は右図のように、精米機本体にセンサーが取り付けられており、このセンサーが精米機本体中の米の有無を感知する事によって作動します。

自動停止が作動する場合：自動停止作動ランプ[°]が点滅しているとき
(精米機本体中にお米があるとき)

- ・ 張込運転，精米運転を連続して行う場合。(精米終了後に停止します。)
- ・ 精米運転だけを行った場合(精米終了後に停止します。)
- ・ 精米運転の途中で、精米シャッターを閉めた場合。(精米シャッターを閉てから約10秒後に停止します。)

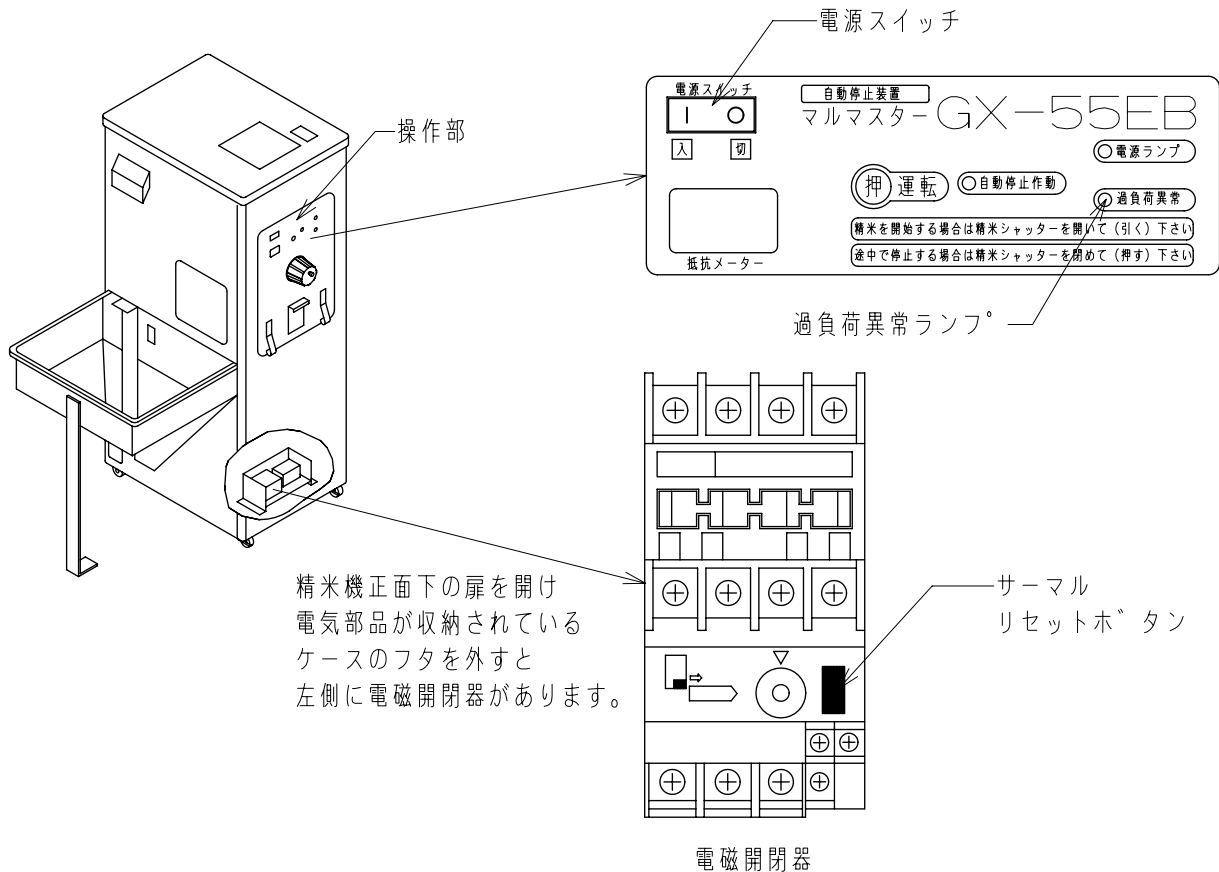
自動停止が作動しない場合：自動停止作動ランプ[°]が点滅していないとき
(精米機本体中にお米がないとき)

- ・ 張込運転だけを行い、精米運転を行わなかった場合(電源スイッチを”切”にして停止して下さい。)
- ・ 回転方向の確認等、無負荷運転を行った場合(電源スイッチを”切”にして停止して下さい。)



警告： 作業を行う場合、必ず電源プラグを抜いて下さい。
感電する危険性があります。

◎ 下記に過負荷異常について説明します。



白度の上げ過ぎ・精米機内への異物混入・揚上スクリュー装置への異物混入・ベルトのゆるみなどにより本機が過負荷状態になった時、過負荷異常ランプが点灯して運転が停止します。

運転中、過負荷異常ランプが点灯した場合はすみやかに原因を取り除き下記の手順で対処して下さい。

- 1) . 電源スイッチを”切”にします。
- 2) . 原因を取り除いて下さい。
- 3) . 抵抗を”0”にして下さい。
- 4) . 精米シャッターを閉めて下さい。
- 5) . 電磁開閉器のサーマルリセットボタンを押して下さい。過負荷異常が解除されます。
- 6) . 電源を”入”にして、過負荷異常ランプが消灯していることを確認して下さい。

(注意) 上記の方法で再起動が困難な場合、電源スイッチを”切”にし、電源コンセントを抜き、側板後カバーをはずし、精米機主フレームを持って左右に動かして、精米ロール内に膠着した米粒をほぐしてから、再運転して下さい。

4. 各部の調整・点検・掃除

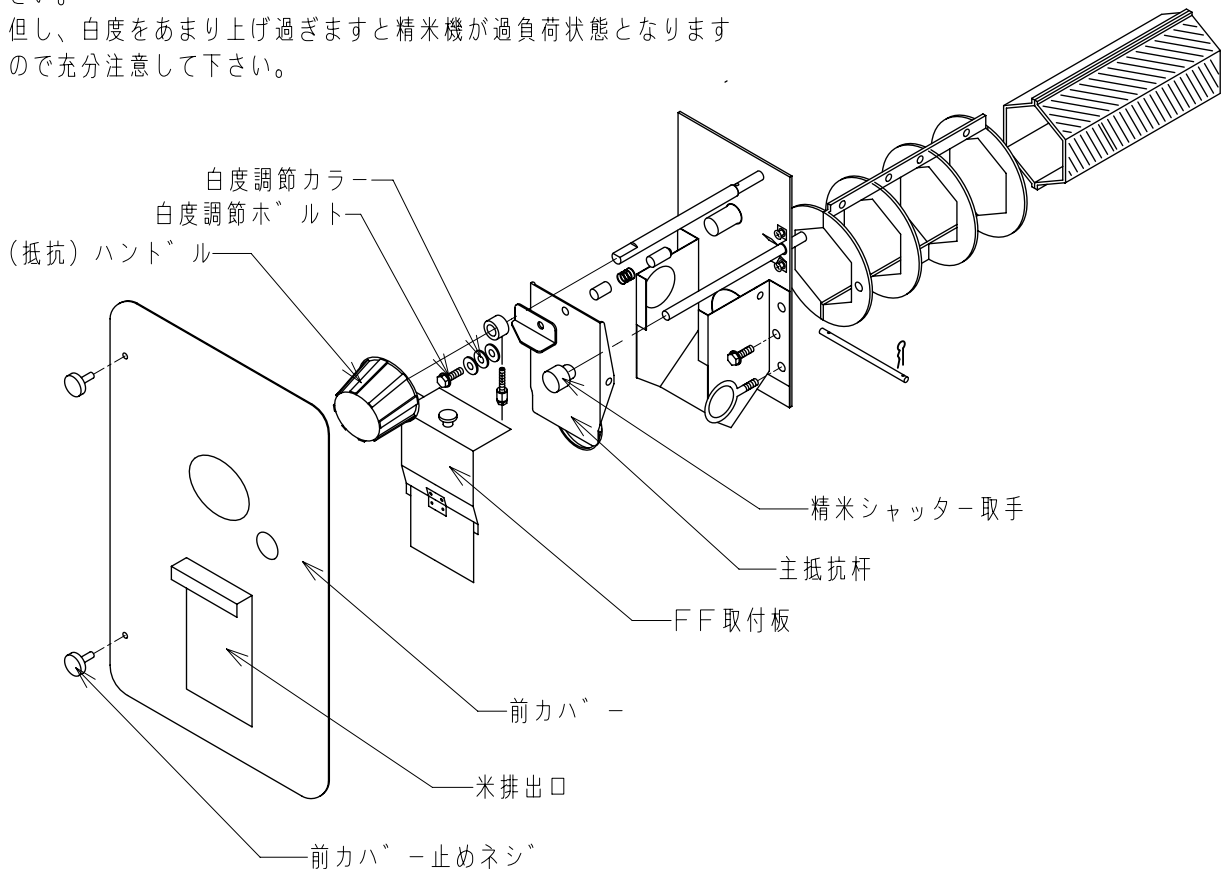
4-1. 白度の調整

*



警告：点検・掃除・作業を行う場合は、必ず電源プラグを抜いて下さい。
安全上支障をきたす場合があります。

- 米の白度の調節は精米機操作部のハンドル調節にて行いますが、長期間使用した時など、このハンドルの調節だけでは、充分満足いただけない場合は、下記の方法にて白度の調節をして下さい。
但し、白度をあまり上げ過ぎますと精米機が過負荷状態となりますので充分注意して下さい。

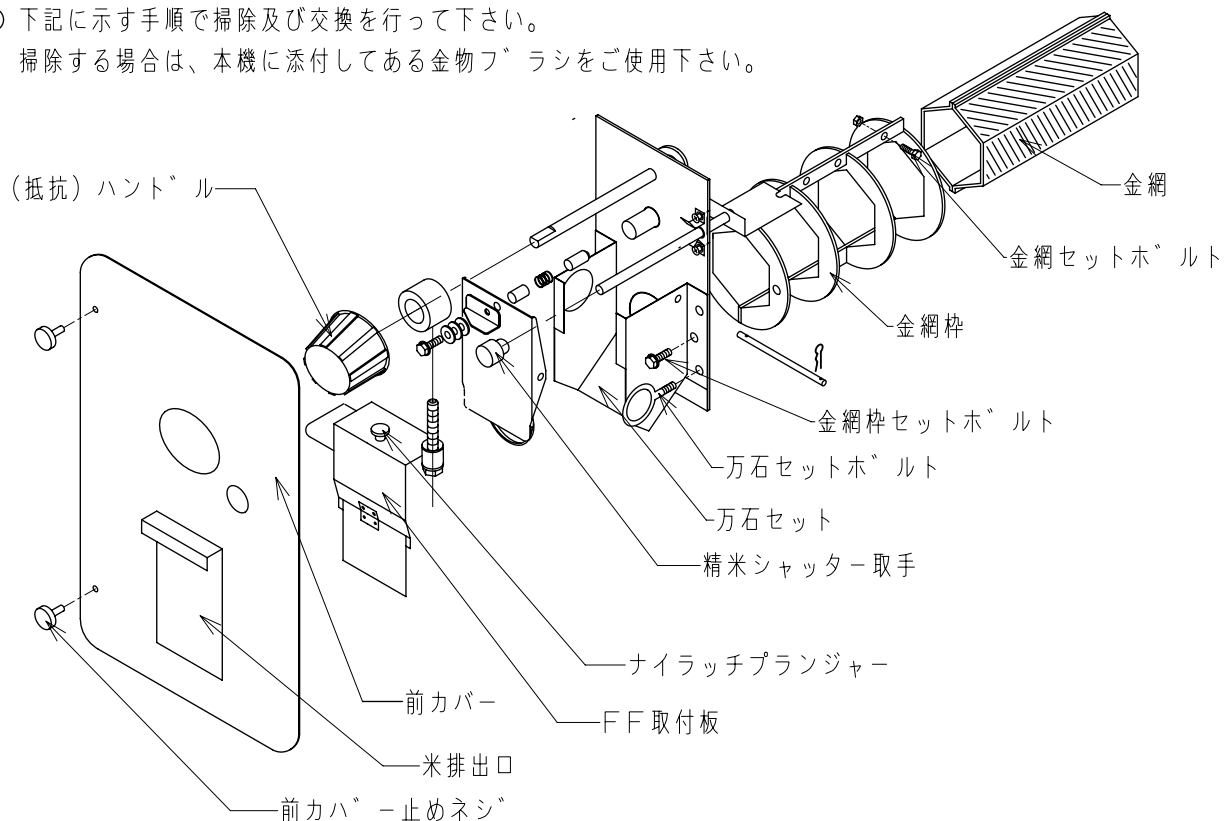


- 1) 米排出口と精米シャッターを閉めて下さい。
- 2) 前カバー止めネジを2本取り外し、前カバーを開いて下さい。
- 3) ハンドルを取り外して下さい。
- 4) 主抵抗支杆の上方に白度調節カラーと白度調節ホルルトがあります。
白度調節ホルルトを外し白度調節カラーを希望の白度になる枚数分だけ外します。
白度調節カラーを一枚外すと白度が抵抗の一目盛り分全体的に上がります。
(注意：白度調節カラーは、一枚ずつ外し一度に多く外さないで下さい。)
- 5) 調節が終わりましたら元通りに戻して下さい。



警告： 点検・掃除・作業を行う場合は、必ず電源プラグを抜いて下さい。
安全上支障をきたす場合があります。

- 下記に示す手順で掃除及び交換を行って下さい。
掃除する場合は、本機に添付してある金物ブラシをご使用下さい。



- 1) . 米排出口と精米シャッターを閉めて下さい。
- 2) . 前カバー止めネジを2本外し前カバーを開いて下さい。
- 3) . 精米シャッター取手を外して下さい。
- 4) . ナイラッチプランジャーを上方に引き上げ、FF取付板を取り外して下さい。
- 5) . 万石セットの左右上下の万石セットホルト4本を外します。(金網枠セットホルトは外さないで下さい。)
- 6) . 万石セットを手前に引いて取り出します。(万石セットと金網枠がセットされた状態で外れます。)
- 7) . 添付の金物ブラシで金網の目を掃除して下さい。

|
金網を交換する場合
|

- 8) . 取り出した万石セットの左右真中の金網枠セットホルト2本を外します。(万石セットと金網枠が分離します。)
- 9) . 金網枠の金網セットホルト(上下4本)をゆるめます。
- 10) . 金網セットホルトをゆるめると中の金網が取り出せます。交換して下さい。
- 11) . 元通りに戻して下さい。

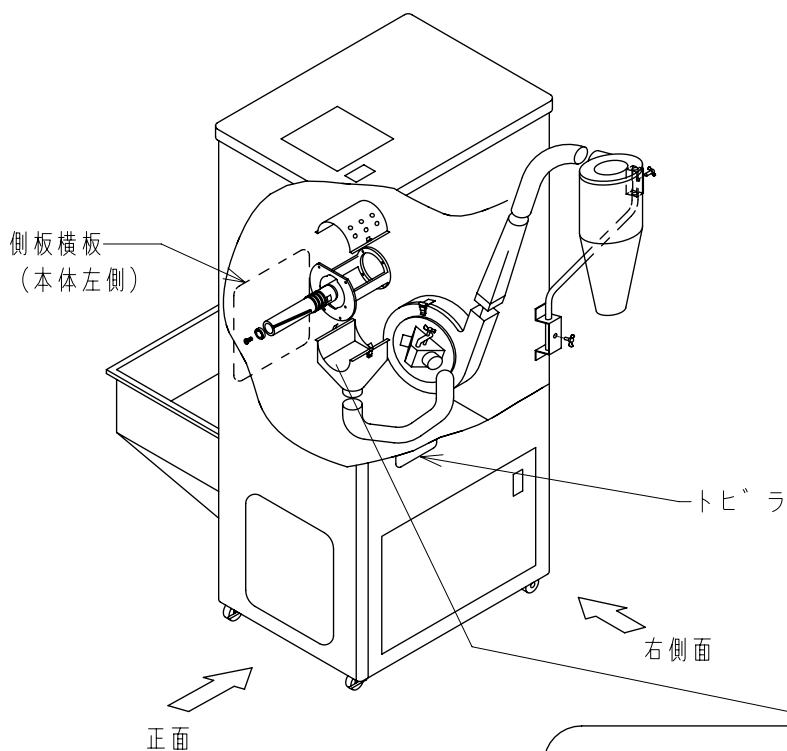
4-3. 吸引シュートの掃除方法

*



警告： 点検・掃除・作業を行う場合は、必ず電源プラグを抜いて下さい。
安全上支障をきたす場合があります。

◎ 下記に示す手順で掃除を行って下さい。

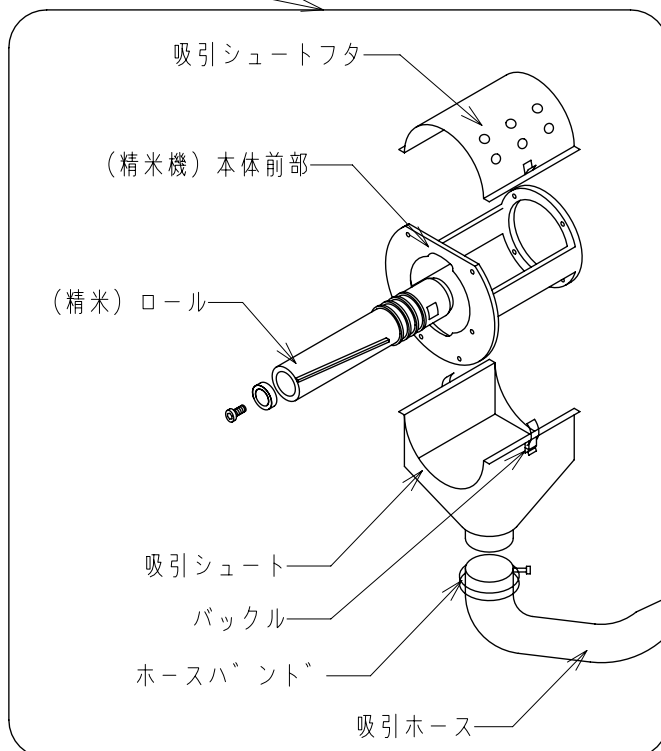


側板横板 (本体左側) 又はトビラ (本体右側) を外しますと、中に吸引シュートがあります。

- 1) . 吸引ホースを外し、バックルを2個はずすと、吸引シュートを下に開くことができます。

吸引シュートを開きましたら中を、掃除して下さい。

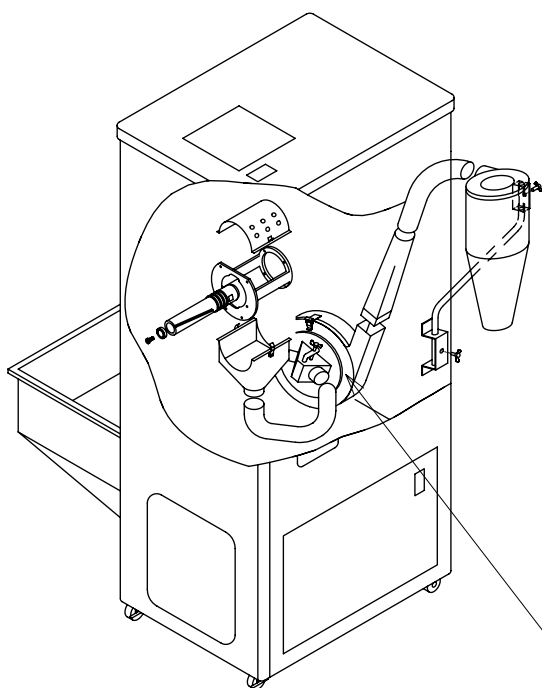
- 2) . 吸引ホースの中を掃除して下さい。
- 3) . 吸引シュートを外したあとの、除糠金網の外部の糠も掃除して下さい。





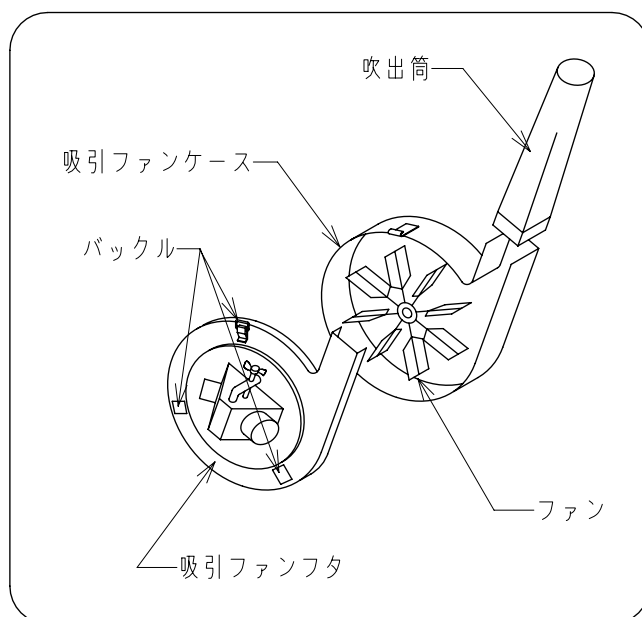
警告： 点検・掃除・作業を行う場合は、必ず電源プラグを抜いて下さい。
安全上支障をきたす場合があります。

◎ 下記に示す手順で掃除を行って下さい。



吹出筒を外し、吸引ファンフタの
3箇所のバックルを外しますと
吸引ファンフタを取り外せます。
吸引ファンフタを外しますと
中にファンがあります。

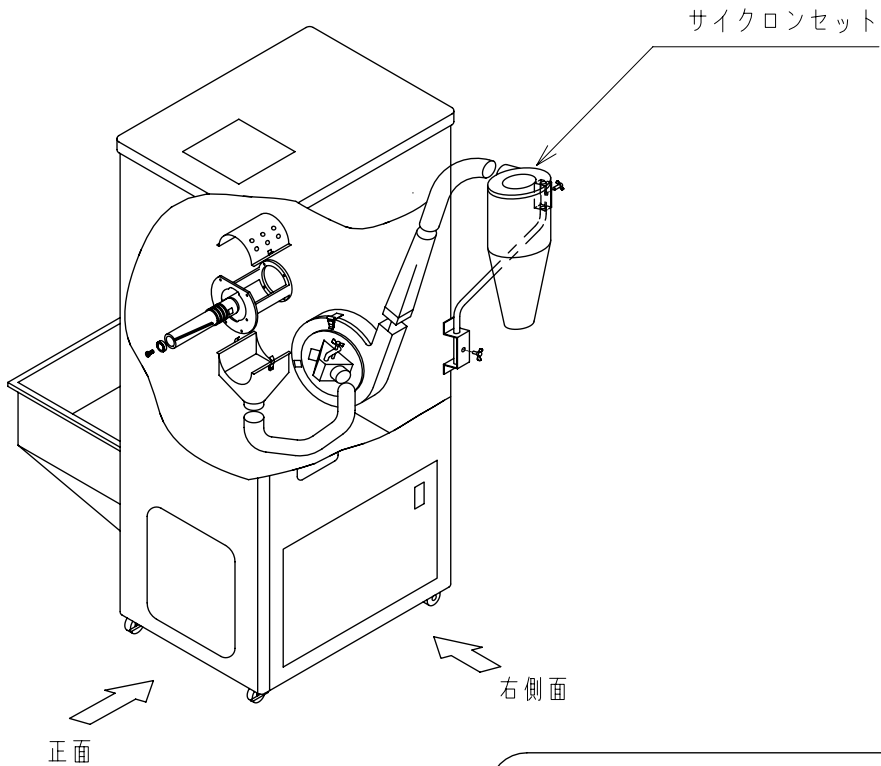
このファンに付着した糠と
吸引ファンケースに付着した
糠を取り除いて下さい。



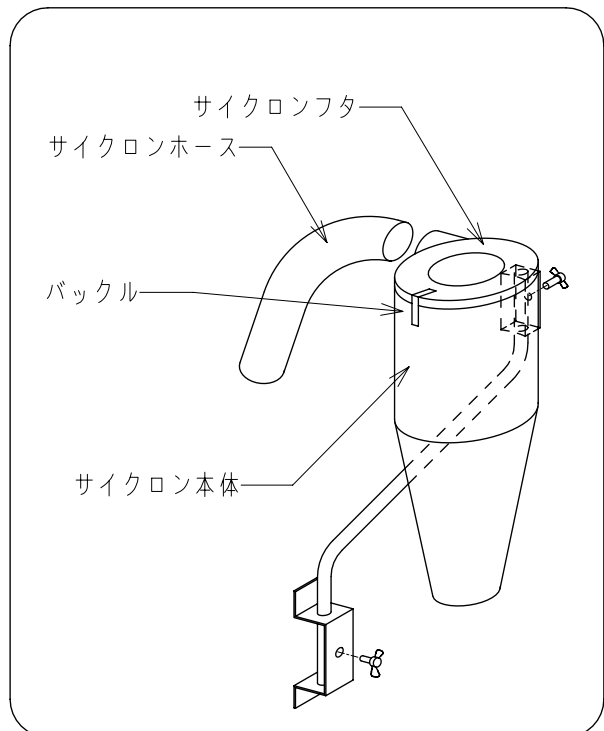


警告： 点検・掃除・作業を行う場合は、必ず電源プラグを抜いて下さい。
安全上支障をきたす場合があります。

◎ 下記に示す手順で掃除を行って下さい。



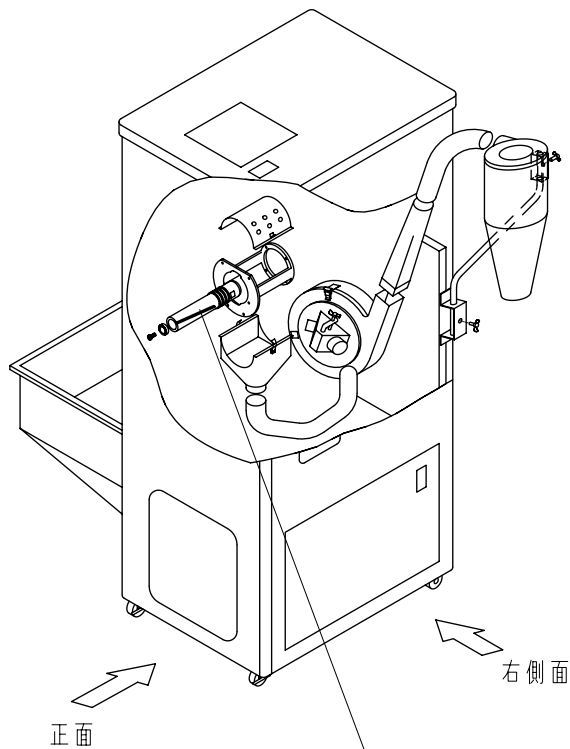
サイクロンホースを外します。
サイクロンフタのバックル3箇所を
外しますと、サイクロンフタが
取れます。
サイクロン本体に付着した糠を
取り除いて下さい。



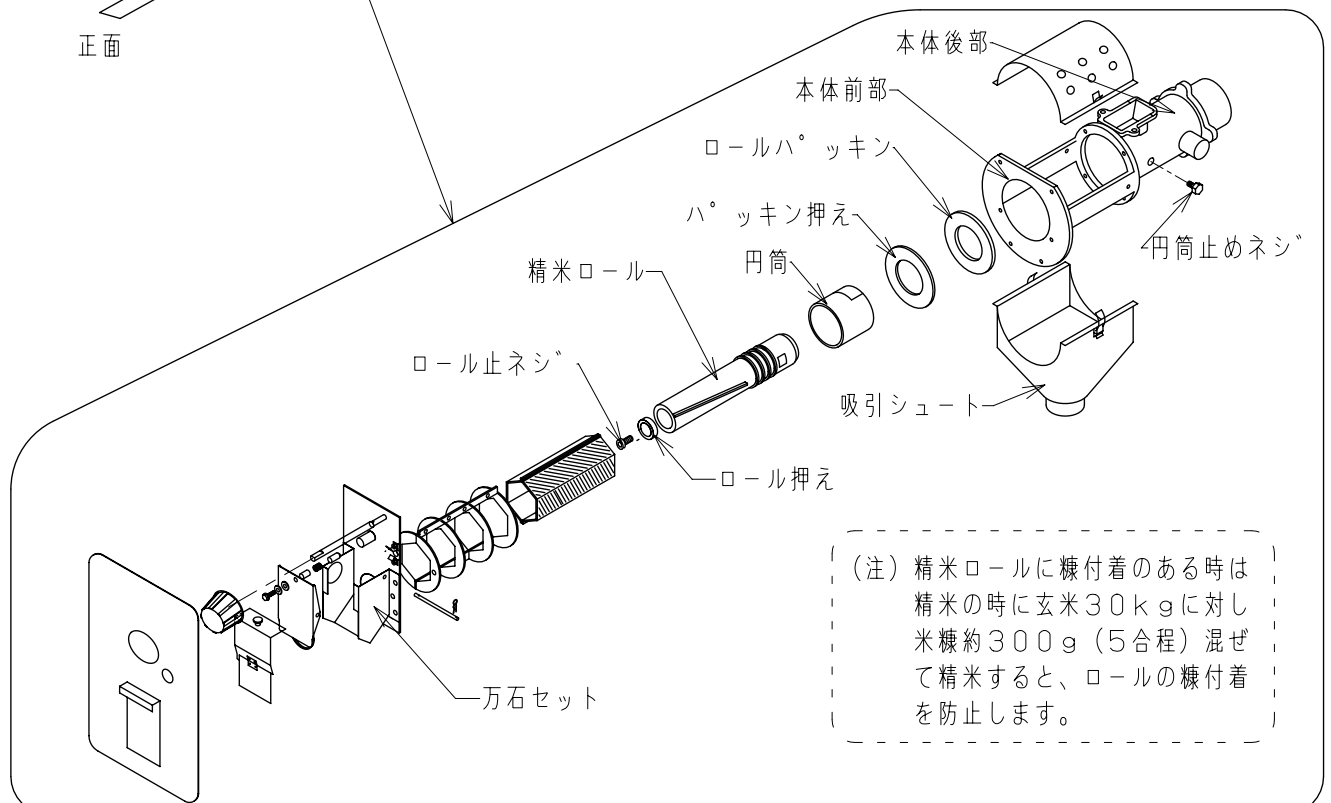


警告： 点検・掃除・作業を行う場合は、必ず電源プラグを抜いて下さい。
安全上支障をきたす場合があります。

● 下記に示す手順で掃除を行って下さい。



- 1) . 万石セット及び金網セットを外します。
(外し方は”金網の掃除及び交換法”参照のこと)
- 2) . 万石セットを外すと中に精米ロールが見えます。
ロールの先端にあるロール止めネジを外します。
(外すにはM8六角レンチが必要です。)
- 3) . ロール止めネジを外したら
精米ロールを前に引き出して下さい。
- 4) . 精米ロールを取り外して
ロールを掃除して下さい。
特に”らせん”部分を掃除して下さい。
”らせん”部分に糠が付着しますと精米機の
能率が低下します。
(同時に吸引シュートも掃除して下さい。)
(4-3: 吸引シュート掃除方法参照)
- 5) . 精米ロールを掃除しましたら、精米機後部にある
円筒の内部も掃除して下さい。



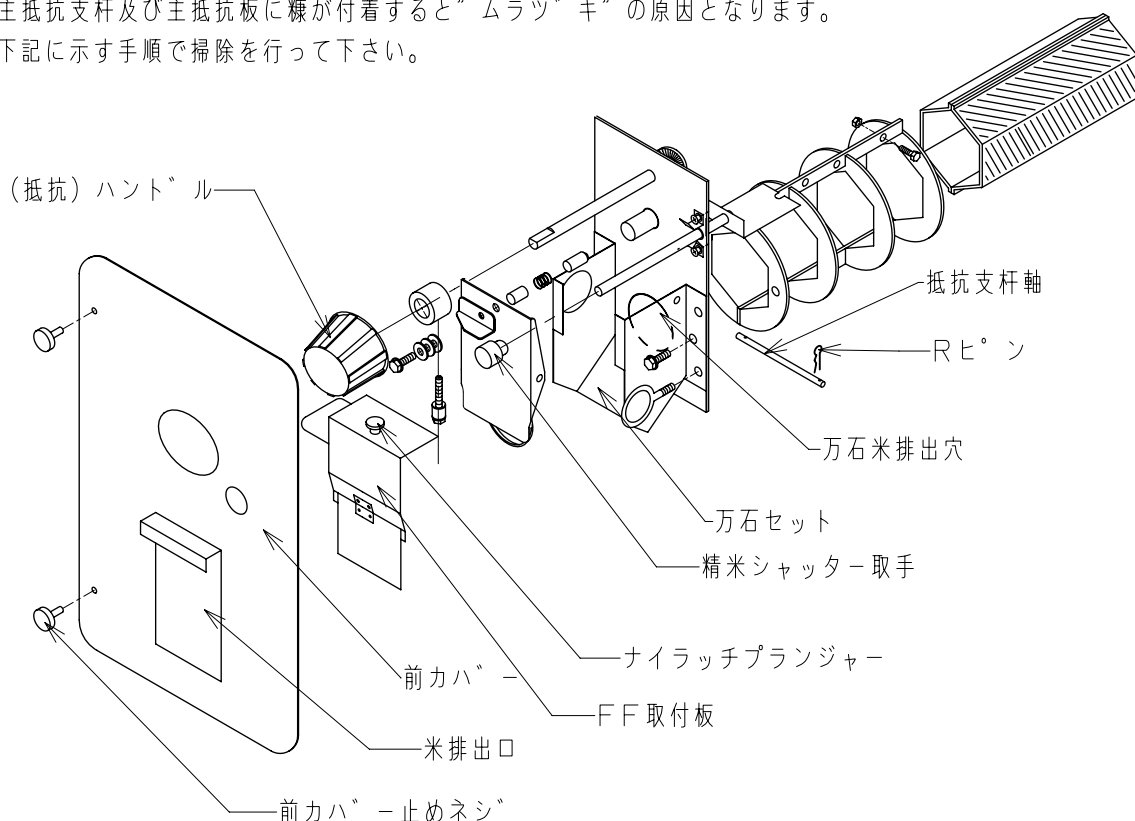
4-7. 主抵抗支杆及び主抵抗板の掃除方法

*

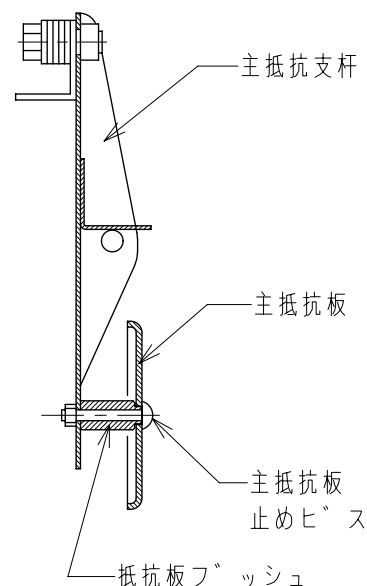


警告： 点検・掃除・作業を行う場合は、必ず電源プラグを抜いて下さい。
安全上支障をきたす場合があります。

- ◎ 主抵抗支杆及び主抵抗板に糠が付着すると”ムラツキ”の原因となります。
下記に示す手順で掃除を行って下さい。



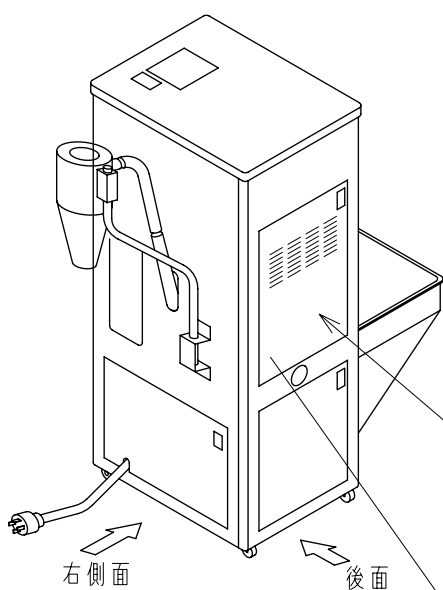
- 1) . 米排出口と精米シャッターを閉めて下さい。
- 2) . (抵抗)ハンドルを左に回し抵抗を”0”にします。
- 3) . 前カバー止めネジを2本外し前カバーを開いて下さい。
- 4) . (抵抗)ハンドルを外して下さい。
- 5) . ナイラッチプランジャーを上方に引き上げ、FF取付板を取り外して下さい。
- 6) . 主抵抗支杆に挿入されている抵抗支杆軸の片方のRピンを外して、抵抗支杆軸を抜きますと、主抵抗支杆が取り出せます。
- 7) . 主抵抗支杆を取り外したら、下方に主抵抗板があります。この主抵抗板の回りを掃除して主抵抗板が手で軽く回ることを確認して下さい。又、主抵抗板が当たる万石の米排出穴にも糠が付着していないか確認して下さい。(右に抵抗支杆と抵抗板との詳細図を示します。)
- 8) . 元通りに戻して下さい。





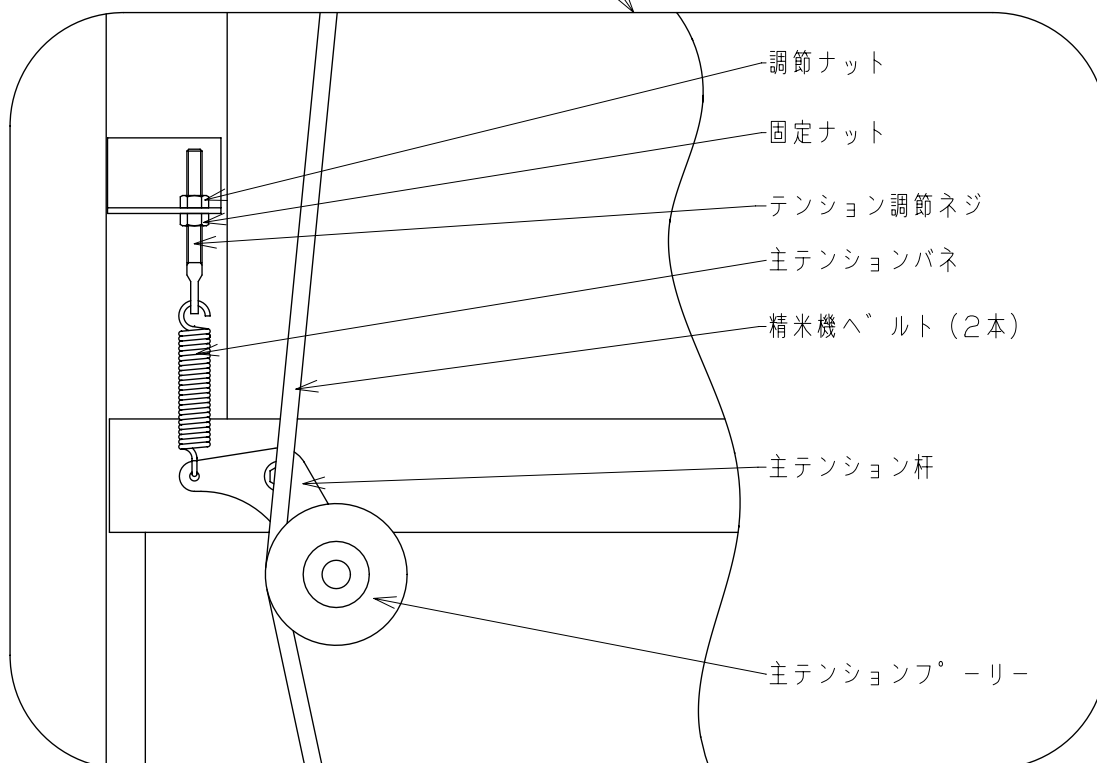
警告： 点検・掃除・作業を行う場合は、必ず電源プラグを抜いて下さい。
安全上支障をきたす場合があります。

- 下記に示す手順にてベルト張り具合を調整して下さい。
ベルトの点検は本機の運転前に必ず行って下さい。



- 1) . 本機の後面の側板後カバーを取り外して下さい。
- 2) . 中に、精米機ベルト(2本)が主テンションにて引っ張られています。
- 3) . ベルトの張り具合を確認して下さい。
- 4) . 調整する場合は、固定ナットを緩め、調節ナットを回してベルトの張り具合を調整して下さい。
- 5) . 元通りに戻して下さい。

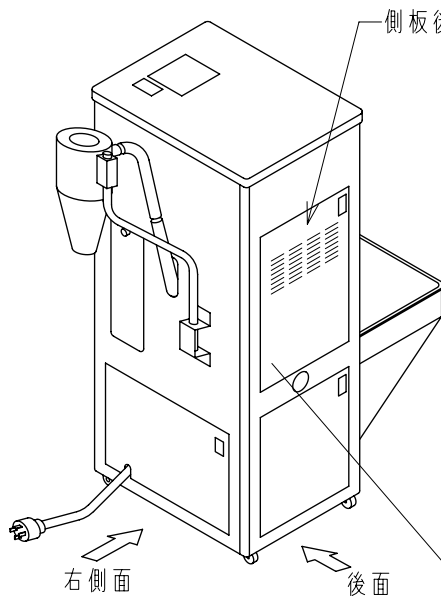
側板後カバー



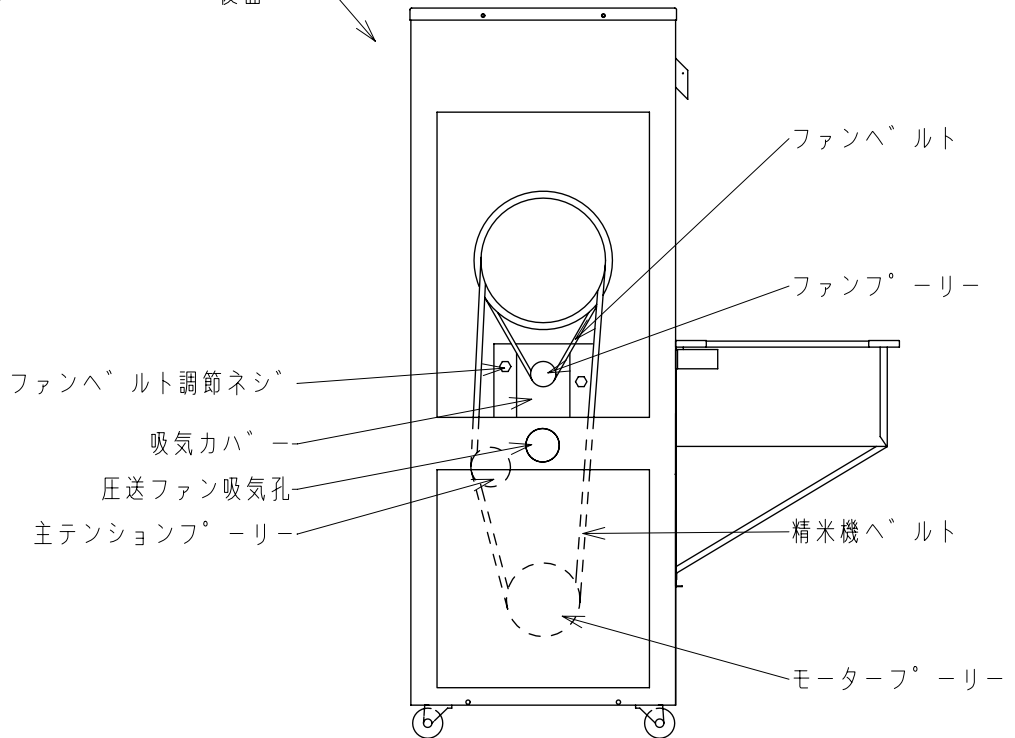


警告： 点検・掃除・作業を行う場合は、必ず電源プラグを抜いて下さい。
安全上支障をきたす場合があります。

- ◎ 下記に示す手順にてベルトを張って下さい。
ベルトの点検は本機の運転前に必ず行って下さい。



- 1) 側板後カバーを取り外します。
カバーを取り外すと、中が下図のようになっています。
- 2) ファンプーリーの左右にあるファンベルト調節ネジ（M8、六角ボルト）を緩めて下さい。
- 3) 吸気カバーを下方向にかか手て押えてベルトを張って下さい。
ファンプーリーが下方向に下がります。
- 4) ベルトを張りおわりましたらファンベルト調節ネジをしめて下さい。

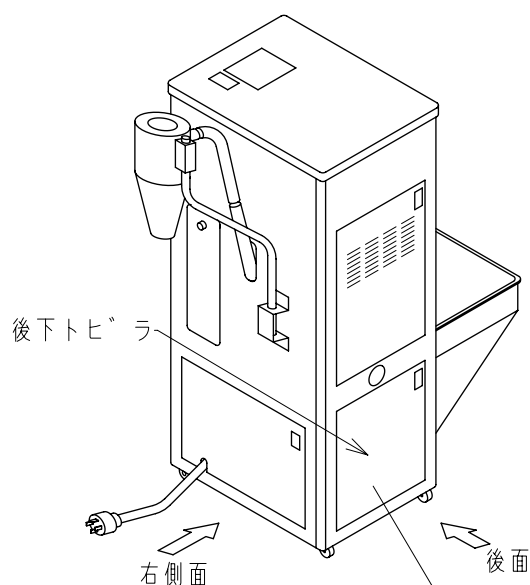


4-10. 揚上スクリーン装置のVベルトの張り方 *

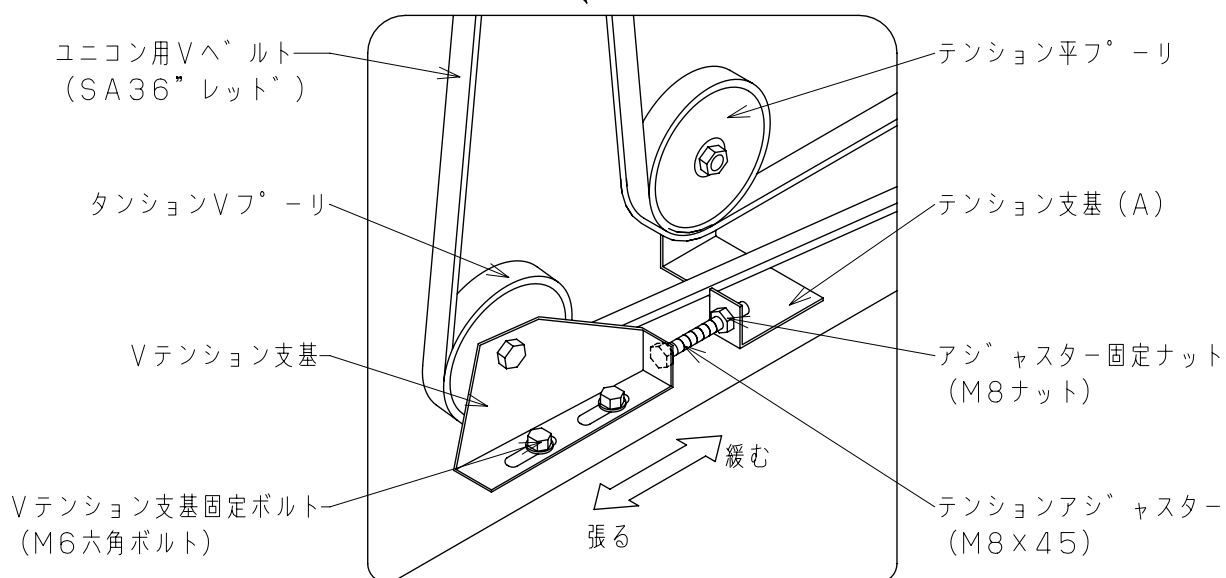


警告： 点検・掃除・作業を行う場合は、必ず電源プラグを抜いて下さい。
安全上支障をきたす場合があります。

- 下記に示す手順にてVベルトを張って下さい。
Vベルトの点検は本機の運転前に必ず行って下さい。



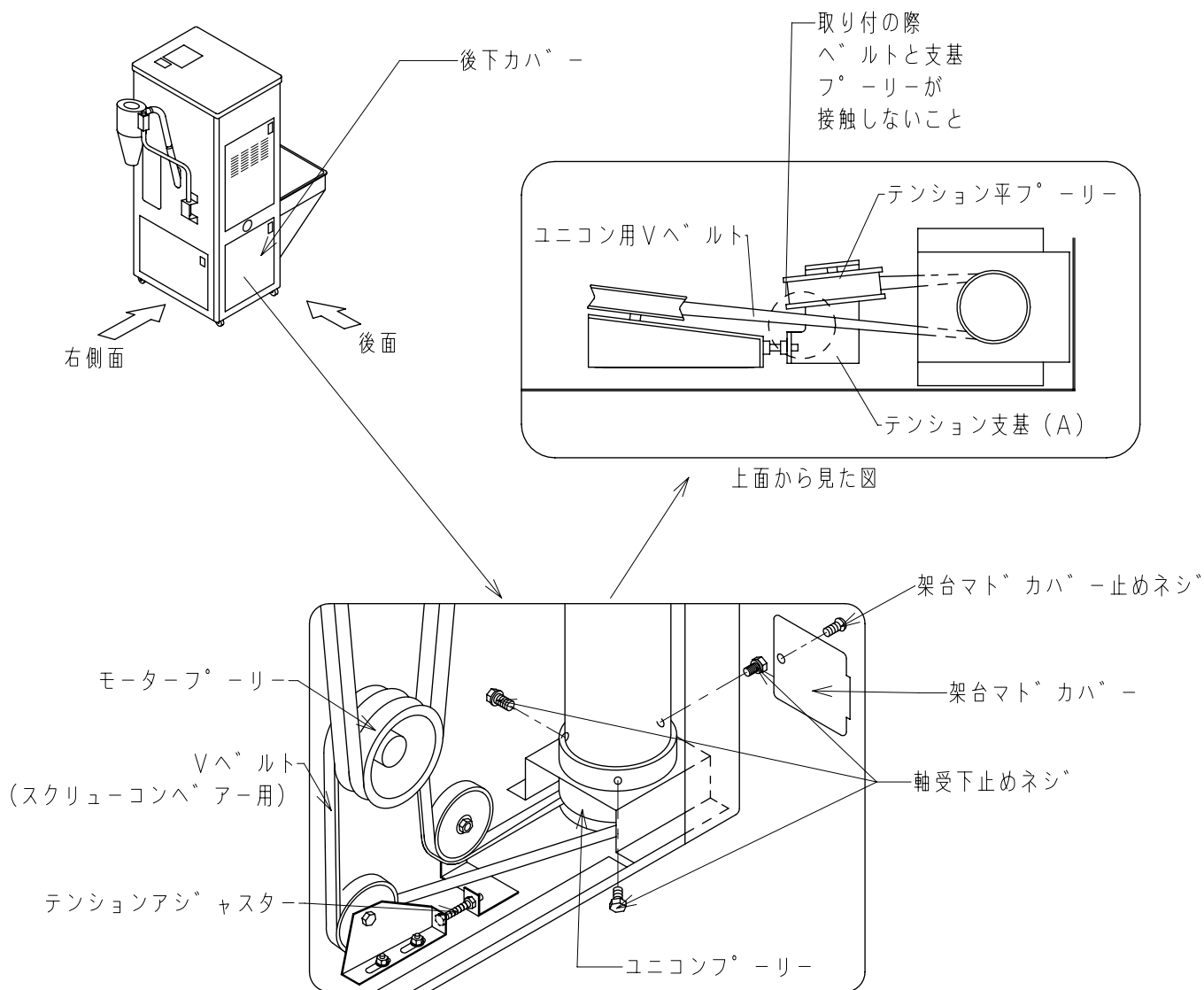
- 1) . 精米機後下トビラを取り外しますと下図のようになっています。
- 2) . アシャスター固定ナットを緩めます。
- 3) . Vテンション支基固定ナットを、緩めて下さい。
- 4) . テンションアシャスターで、Vテンション支基を移動させて、Vベルトの張り具合を調節して下さい。
- 5) . 調節が終わりましたら、アシャスター固定ナット、Vテンション支基固定ナットをしめて下さい。





警告： 点検・掃除・作業を行う場合は、必ず電源プラグを抜いて下さい。
安全上支障をきたす場合があります。

● 下に揚上スクリーンの交換方法を説明します。



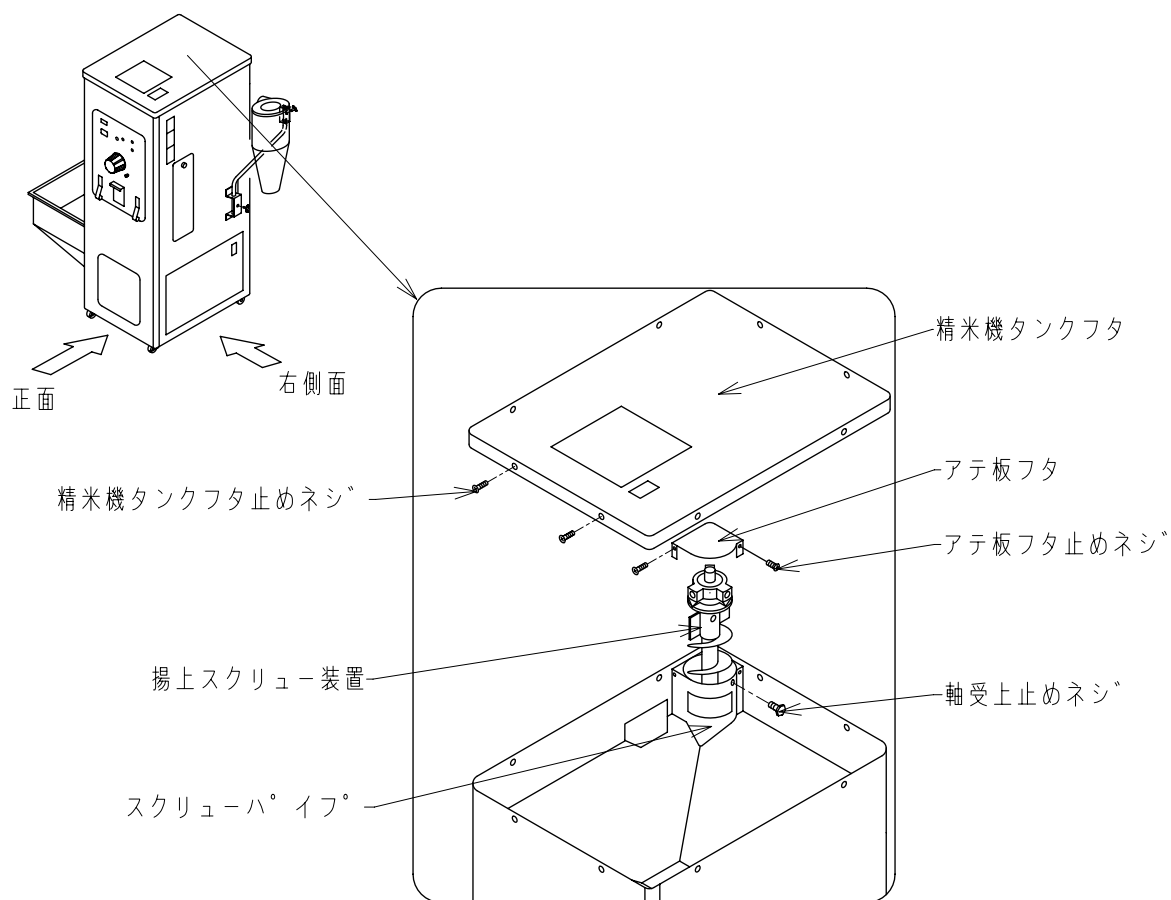
- 1) . 後下トビラを、取り外して下さい。
- 2) . 架台左マトカバー止めネジを外して、カバーを取り外して下さい。
- 3) . テンションアジャスターを緩めて下さい。(揚上スクリーン装置のベルトの張り方参照)
- 4) . Vベルト(スクリーコンベアー用)を、ユニコンプーリーから外して下さい。
- 5) . 軸受下止めネジ(3ヶ所)を取り外して下さい。

揚上スクリーンの交換方法 (2) へつづく



警告： 点検・掃除・作業を行う場合は、必ず電源プラグを抜いて下さい。
安全上支障をきたす場合があります。

◎ 下記に揚上スクリーンの交換方法を説明します。



- 6) . 精米機タンクフタ止めネジ (8ヶ所) をはずし、フタを取り外して下さい。
- 7) . アテ板フタ止めネジ (2ヶ所) をはずし、アテ板フタを取り外して下さい。
- 8) . 軸受上止めネジ (1ヶ所) を外して下さい。
- 9) . 揚上スクリー装置を、スクリーハーフから取り出して下さい。
- 10) . 新しい揚上スクリー装置と交換して下さい。
- 11) . 取り外し方の逆の手順にて、揚上スクリー装置を取り付けて下さい。

5. 無洗米造りの精米装置として

5-1. 無洗米造りの精米装置としてご使用の場合

*

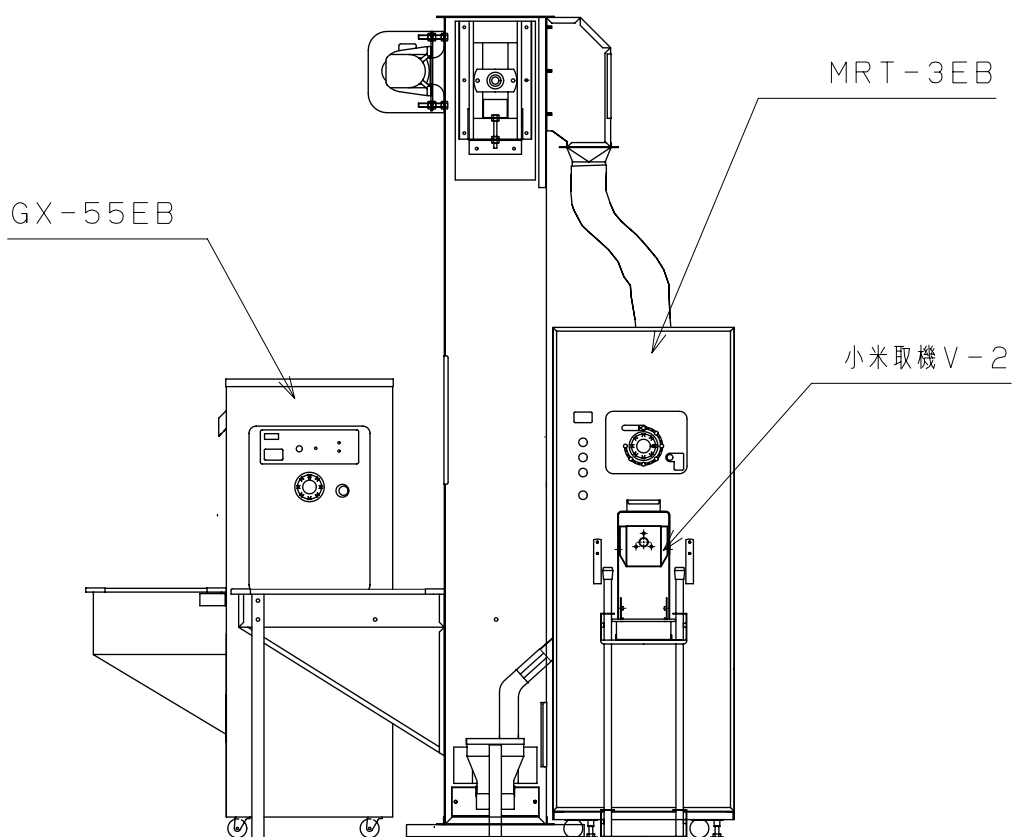


警告： 点検・掃除・作業を行う場合は、必ず電源プラグを抜いて下さい。
安全上支障をきたす場合があります。

- (1) マルマスGX-55EB型は低コストで手軽な無洗米造りの設備とすることができます。マルマス精米機の優れた特長を生かし2回精米する事により乾式無洗米並以上の精白米を得る事ができます。炊飯する際には無洗米モードによる炊き分けは必要なく従来の白米炊飯で炊き上げる事ができます。
- (2) GX-55EB型を無洗米造りの精米装置として御使用になられる場合は、下記の方法をお勧めします。

◎GX-55EB + 無洗米仕上機MRT-3EB + 小米取機V-2

* 玄米からの歩留り89%程度の仕上げですと、糠の臭いが残る場合があります。米の品種・気象条件により搗精具合が変化しますので、できるだけ玄米からの歩留り87~88%程度を狙って仕上げして下さい。



6. 不調なときの原因と対策

6-1. 不調な時の原因と対策一覧(1)

*




警告： 点検・掃除・作業を行う場合は、必ず電源プラグを抜いて下さい。
安全上支障をきたす場合があります。

状 態	原 因	対 策
精米機が作動しない	電源が入っていない	電源及び配線を確認して下さい
	サーマルが作動している	電源を切り原因を取除いて下さい。 サーマルをリセットして下さい。
	操作が間違っている	取扱説明書に従って操作して下さい。
サーマルが作動する (過負荷異常ランプが点灯する)	必要以上に白度を上げ過ぎる	抵抗を弱めにして下さい
	ベルトがゆるんでいる	各ベルトを張って下さい
	精米機・揚上スクリー 内に異物が混入している	各装置を調査し 異物を取り除いて下さい
	電源又は配線上で異常がある	電源及び配線を確認して下さい
白度が上がらない 除糠が悪い	吸引ファン、吸引シュート、サイクロン 精米機内に糠がつまっている	取扱説明書通りに各部の掃除を 行って下さい。
	金網、ロールに糠が付着している	各部を分解し掃除して下さい
	金網、ロール等が摩耗している	金網、ロール等を交換して下さい
	ベルトがゆるんでいる	各ベルトを張って下さい
砕米が発生する	米の品種及び状態による場合	抵抗を”0”に戻し、もう一度調整
	必要以上に白度を上げ過ぎる	抵抗を”0”に戻し、もう一度調整
	米に胴割れが多い	抵抗を弱くして二回搗する
	精米機内に異物が混入している	精米機本体を分解し 異物を取り除いて下さい
精米に時間がかかる	ベルトがゆるんでいる	各ベルトを張って下さい
	金網、ロール等が摩耗している	金網、ロール等を交換して下さい
	ロールに糠が付着している	精米機本体を分解し ロールを掃除して下さい
	精米タンクへの 張込に時間がかかっている	揚上スクリータンク・張込 ホッパーの落口を掃除して下さい



警告： 点検・掃除・作業を行う場合は、必ず電源プラグを抜いて下さい。
安全上支障をきたす場合があります。

状 態	原 因	対 策
自動停止装置が作動しない (自動停止作動ランプが点滅しない)	精米機本体に米がはいっていない	精米シャッターを引いて精米機本体に米を入れて、自動停止作動ランプが点滅するか確認して下さい。
	基盤の故障、配線の断線	当社又は購入店に連絡して下さい。
機械が振動する	機械の設置方法が間違っている	取扱説明書通りに設置して下さい
	機械を設置している地面に ”カタ”がある	水平にして下さい
カタカタと音がする	フーリー類のセットホルムの緩み	フーリーのセットホルムを締める
”ムラツキ”になる	主抵抗支杆・主抵抗板 万石の米排出口などに 糠が付着している	各部を掃除して、付着した糠を取除いて下さい。
注意、その他の異常がありましたら、当社又は購入店にご相談下さい。		

 警告

- この取扱説明書を熟読され充分理解された上で、本機の手操作及び保守・点検を行って下さい。
- この取扱説明書を本機の手操作及び保守・点検を行う場合にいつでも見られるように大切に保管して下さい。
- 精米機を友人等他の人に貸し出して使用される場合は、必ず本取扱説明書を機械と共に貸与して下さい。

保 証 規 定

1. 保証期間

納入日より起算して満1ヶ年といたします。
(保証期間が過ぎると総て有償となります。)

2. 保証内容

保証期間に於いて、本機を構成する部品、材料等に、設計製作上の欠陥があらわれ、弊社がこの欠陥を認めた場合に限り、弊社特約販売店または指定サービス工場で当該部品の取り替え、または修理を無料でいたします。

3. 適用除外

保証期間内でも、右記の場合には保証いたしません。

- (1) 使用上、並びに取扱上の不注意、過失、点検不備によって、故障が生じた場合
- (2) 弊社が規定する仕様の限度を越えて使用し故障した場合。
- (3) 弊社が認めない改造変更が原因となって故障した場合。
- (4) 弊社純正部品以外の部品使用が原因で故障した場合。
- (5) 弊社特約販売店、または弊社指定サービス工場以外で修理され、故障した場合。
- (6) 故障判定資料の不十分なものおよび損傷部品を紛失された場合。(故障交換部品はクレーム判定完了まで保管して下さい。)
- (7) 本書のご提示がない場合
- (8) 本書に、購入日(年月日)・購入先名(販売店名及び農協名)の記入がない場合、あるいは文字を書き換えられた場合。

購入年月日	平成 年 月 日
購入先 (販売店及び農協)	